集義和書　四

Banzan Kumazawa

Shūgi washo

LIBRARY OF THE PRINCETON
MAR 10 1966
THEOLOGICAL SEMINARY

Shugi-washo

vol IV

集義和書巻第十一

義論之四

一心友問て云、敬と云ことハ受用手ニ不入、故にやゝもすれバ雑念やまず、敬を守る時ハ心氣健ならずしてわづらひあり、或時ハ一物あるがごとくに心氣をくるしむことあり、或ハ頑空になるも有、又ハ間思雑慮あるものもあり、敬を守らんとすればかへつて妨ることもあり、かくしてはつゞきがたし、云々。答云、敬ハ天地人三極の要道なり。天の流行してやまず、日月のかはるがはる明かに、寒暑往来して、物を生ずる事間断なきハ、天の敬なり。地の山澤氣を通じて流れ止ず、風雷雲雨を起して物を生じ、ひとたびもおこたらざる所ハ敬なり。天地ハ無心の敬也。かるが故に人ハ敬をやむ時ハ、暫の程なりとも敬なくハ天地も蹶

早川氏蔵書記

まつ所無し是故に敬ハ本然固有の徳なりけるに誠ある
ところにあらざれバ聖人の道と称美してく欽明文思といふ欽ハ
敬なり易に云天行健君子以自強不息敬の受用なれば深
功なるハなし敬ハ心の本体にあり性の徳なり故に聖人ハ
要んずるにそく敬存せらるゝ誠にあり明らかに乃性也この気に
欽明と云なりひとへにあやかるまゝく間思雑慮なし無事に
時にハ虚にとして幽深玄遠なり昭々として神明不測也
寝れバ時にハ静なる也よくそこりたらバ懐中の理をしらで
ごとくなる陽氣を地中に包こ蓄おかるべし常人の寝ときも
戸のごとくなるにぞこもれし晦に嚮て入て宴息する也故に
時としてく敬せざるといふ事なし夫天地の大徳を生といふ人乃
おかげなる仁と云天地に法りて三つとして強てやまじ生々の流

行に合しくとくまざるもき敬なり夫孝天之経也地之義
也人之行也經義行を一貫せ甚やすくされ直の差別を敬
と云卿大夫卿士是なり　困ま候ゆゑおおもひつくと云
自反慎獨され敬の多を下も工夫なり常人ハ暗よしれを
敬とるつしさでゆくのなれて自然よ敬も深淵よ臨之薄氷を履ム
晴方の落の云ふ罪ゆゑしれつ故ま終を慎む也さる欲利害乃
天真残さしるハ奉生不死の真身をおとしつるゆゑ深淵薄
氷よ過ぎより視聴言動思ともに天理にあらずして廃く
停胖なるも人欲に溺るゝ時もいつとなく自らめり學而時
習之天理人欲の善悪ならくハ戒慎恐懼をなさんの生
意残ぬ事なし天真乃悦を知る残ゆゑなりしわ機なとい
百事善悪よ存養省察してさ敬んせゞとあれと離るゝ云

何ぞ氣象に泥まん何ぞ陽氣の健なる所を見ざらん間思
雜慮よりこ意必固我の勢よりして頑空を專にし物を
逐の念よりおこりてその外茫然として存養省察の功疎く
にして念乃起る所不知不覺に物欲逸放してそのうへは
猶桐火燃て滅してのちには何もなくして如此ものを
欲説をとらへて世教をそこなむとするものよく惑を辨へてみ
ぞくぞく誨くするものはしかれて精しく命道の微をさとるべきなり
一　ん爲は問く云當世學者の論に養子といふことはあるまじき義也と
いへるもありそれとてもそのまゝ家をつぎて家筋乃者にも
と流浪させんも不便なる事也あれはされはとても世の中此
人情を何ぞきこへかねその所にあし聖人の法といへるとも何ぞ
かわらくをのびざればごとし　春秋大夫乃國邑部をも封じ

給ふもある理也一人として天下をたもつて天下を治めしむ國郡をわかち
一人ハあるべし其弟をそへてむつまじくあらしむべし天子の其國
は養ひとくさせてあるべし一人としてく退去ことなかれと思ふ
立ても不忠をもおさへて治る者ハ國郡の主乃位あり國
郡の主たりとも又乱て其代をさきおろし替へあり今家
も亦あつまり子孫まで久しくつゞきたるハ譜代あるも兄弟お
ほくさきんのいまるといふ家なく其侵儀をはとむべきもの伐攘
て位禄をあたへ其家臣の男女迄もうつしむべし諸侯も
咸て其國の位禄をうくれバ其國の先君を尊ぶべきもの
其者同姓なるハなくに祭祀をはがむべし他姓なるハ往
く同姓をもとめて我國の僕者ともさむ同姓其器なくハ報
かを以てくちかく祭祀をとりおこなふ事あるべし源平藤

橘等の姓を以しるしおきぬるゆゑに同姓のあらさる事あらし同姓成養子とするハ唐の法也周人の百世といへとも婚姻不通の法も同姓の親みをひろめて人乃情をたくしとするものし同姓なくハ他姓といふとも可なり人ハ皆天地乃孫なれハ同姓ならさるハなし只さへその法しもとめかたきゆへものゝ人倫を乱すにし礼をまるで禽獣とさる事なきのみしかれとも世其上大節を守るハ君子の義なり小節をまもるハ小人乃事也小人ハ小節にかゝはりて禽獣にハ遠さかり君子ハ大節を守て小人になかく世路にをいて小人乃人情風俗になかれとも儀なく人情を塞しむる時ハ大道とならて故に聖人も二年にして成なるとあらむ世にして仁ならむとのたまへり養子入聟等をも今日本の風俗となして人情乃塞を

ふ實なる事ハ我身をせめず人の非をそしらずして天のせむるをまつ
あるべし天下の風俗を知るとハ下にある者の俗に随ど
争ひ論君上に知らざれバ法を立ずべし徳化の
ひろまるにつれて漸をもつて法をゆるかすべし
同子路孔子の命によつて射をとりおこなふ時に
人の情をしるにあらず恥をしらしむる事ハ如何 曰あれ聖賢の
しるにおよばじ孟子曰仲尼ハ甚しき事をなさゞる人なり
也道理ハあきらかなれども大場にて人に恥辱をあたへず
ます義不仁なる事ハ今日世間にもおほくあれども世界
唯や孔門にはおほくなきや家語にハ後人の附會のことおほく
く信ずべからず當世道だてをする學者も凡情の誘引を
まぬかれず利欲の根をたゞさず不仁をもつて量をおる

古人の跡を見てしく道を志しても得る事は禮法をさるのみ
なりとおもへり美風(ビフウ)ともなれる常人の為には大義ともならざる
ことはなきにしもあらず女子の貞女の節を守るしるしとなり凡善
は虎の皮をきる様に道をわきまへもとあれとも善き
はしとこそいへれあまりにすぎてはあやまらるれ大道の罪人なりたゞ
ひ虎の質(カタチ)なるものゝ羊の皮をきて群をみだるものゝ如くなるを
ひきゐるとしやうぎをたて塵よりかろしあれは善き
也むしろしるべきあれはよき事なれども恥かしきことなき君子の學は忠信
などにあらずして文には中をとるへし

一朋友問て云江西(コウセイ)の學によりて天下皆道のしりうると云事
をいはれても儒佛共に目を付かへさるは大なる功也　答て云
むかしの善をわするべからずれば害もなし聞て之を運得

雑へたゞ道の大意をもしらずして管見を是とし異見を立て
聖學をうしなひ悪人をまちひく事なく出来ぬ江西以前よりハ世
弊ありし也天下の人目をさましもせしをへともいまだ
偏を好むの人へを見るに拙學の自滿乃ためにつえへ一二子なきを
一學者問て云或人の云へるにハ有無の見解をはなれて単
詳にいへる處中道あり儒ハ道体のいふ也今乃有無体をしてへ
あくこるはが接へたり老自然の妙たりとはあらざる無と中道
をうらとせる也老子の無をかくし有事とうらをせるの釋
氏ハ有とうち無とうき中道と說くハ中りのあるとなくすと說
そし畢竟中となりとして無に帰らしむとせりとのむね曰
儒のしれ今日形色の上にあらへとも形色の外をさらたる者を
無なり頑無よハあらざる形色をさきの道也其無ハ神明不測

けしく其大なる事なく其小なる事なし東西南北上下中央をし
虚霊不昧なるもの世是道神也故に中より一形成ものゝ主ハ
玄なり無の躰にて中なり物あれハ則あり形ありて天地
惟聖人のみしるへく可践形ヲ　又問云或人のいへるにハ三千大
千世界とこそて此天地の外無量乃世界あまたありつゝの小天
地人をとゝのへて道を立て教とする様さまに似たり　云ふあれ
いまさに形色の見ゆるを離れて萬物乃大を以て目をわすれのもて
その世道に大小あり天地の外天地乃内異なる事なし
且大虚とこそハ三千大千世界とのみなりも大なり大虚と云
も道體也道の外大虚あるへからすと

一人の問云君子と小人といふもの時々と行とニツにあり不
前獨居又問外からぬとあれを一よせんとすれともとくく気鬱

もいはゞおなし又親き友とし人をも隔心なく穏なるが満
んなれば善悪ともに中へ入得ずして和して一体のおもひを
なさしめ我をもいさめ人をもいましむ是得るなれば我が人々
おのづく流るゝなるあるべく取あるありきりあるしいりく受用し
侍るべきや
若云君子と小人とハ人前と獨居との境界を立て云ふ是
も時ハよりの事によりて人ハよりて有やうあまた受用の端
的にいはあらく眞實の境界をもちて人々自己一念獨知り
向べく慎むへし大學乃慎獨の獨乃字の不知の字義
解て是を後へ言語動作のかわる獨と云てその一念獨知乃
一人のわざかなるを人前のことハいはすとあらハれたるの
毎しかも是ん時ハ得るその格法よ成て窮屈にしてん只主

かゝるをもし獨とゞまるべく知のあつかひかくむべし
一朋友問君と親とハいづれか重き　答時中をと重しとすると
君に忠あらバ親への軽重をいふべし人のためにハ君に忠をつくす
軍陣におもむかんよりハ父母妻子を敵とし、かねてよりて
自らの君臣の義をまもりて敵の臣とハ成べからずしさればこそ父
母妻子一族よりも君一人を重しといへるかさふらハあるまじ
存ぐハ義を重しとする也父母のかんにもまさるをと安しと
生たる我身ハ父母の形をこそとゞむるへしといふも性命をこそびぞ又父た
ある者ハ不為の難にあひてあやまれんとせんとする時ハひるたる
君に位重禄をうけさく君に忠あるともさやうく父を討
たゞのづれかゝるべし此時ハ君よりも親を重しといへるか
さふらハわぐさて仁義をおもしとさるゝ也されバ君親の心に志かたるゝ

およそ五常の性といへるも仁をはじめとして義禮智信を備ふ
また文も信とあらはして仁義禮智を實とさだむることいはゞ孝
經に孝をもとゝして徳をたゞしくして仁義も實とするなりぬ論語
には仁をもとゝしたまへて孝弟を實とあらはね實孫とす
てゝ親をうやまふ時はあらそふ親を助くるは君のためにまつ
あべても家をかへりみず君に忠をつくすべきは孝の道で
君に事ふるは親のために悦ぶ事一方ならずといへども
その後主としては父への道にあらずといへば雙方の悦ぶ事に
まじはひの君とまじはひの親は酒氣の常なりといへ共まつとし
爲にもふかくつゝしむべし
一 或問人もし善人とならんとならば家には善人生れおとなしくありて國に
も隱居するといふもこゝろざしをつらぬくへしといふなりぬるや

一 書云くこの理あり天道の仁なり家のさかえんとならハ積善(セキ)
悪の報へなり或ハあしき人ハ乃ちよろこふ事ハ道徳を
修めんとて其繕ひを備し子孫を再興(サイコウ)せしめんとの命なり
あらそふ不善ハ善なれとも悪にて備へさる道をうけ継て流なり
子をも子とものなり又養へんとまられ世に賢臣のあきらかれ
事ハ運命(ウンメイ)とそてふあやうきことざしあれはよろつく賢を
思ふのみならす天道其ふところへをひろくへさしかんかな
よ賢才をあらんすへくもたてよ善をえてらし善を合したる
からわふるく天命に應をへつき道徳を立さるあに後にほろび(ホロ)
よ系つその世あれをと大學にも賢を見んしへもわくるこそ
すらんあまくも用ふそとあさのみとつへらす

一 明教云我國よ生れ生の名残ゆかて道よ志し素ゆきてあさか

ひ學びむことハ殊形にみえんありつぐ中ハ法ふるまへきや
吾云古疑よ問めそまさうるさき世まわりくもしまそあうかれ
まりしまくの山里ころか ろの人乃ゆふろくふりく学
問せだとやあろむかくやあろんとたおりろへき事を
ゆふむろへるく志てさつろくあろ也しまりて見落ぐ一として
そのごらくある事ハ行らし學術もそのゆふ好みるて要
つろやうのもちなる殊も志らず愚ろ学ぶそく今のうらて
まうもんへみをも志うれどもしおやまりてみ殊えろり
そみちひどくとやへ人を好むちからの人道を疑しきとかし無を
東学ハ殊とく色らし留へし
一 名於問貴老の法事を知ろくおもむろ人あさまく多く不知し
て其一言人をお淨し聖人乃道と学ぶ事を殊を求ろ不え

あらそひたる人ハ其名の質あしく道やすからずかへつてくるし
猶くるしき事ハ何ぞや　答云人の悩むるハ我と労するゆへ也
うしなへバ我と安きる也我病ならざく御氣色し労せん
ことなかれひとへに安からざることあるをハかならず捨へよそをまた
きハ我と助るなり知て悩むるといへバ愚よ嫌るなく忘ひ
ましくにあらずて氣象のあひかなひ之するなる人ハなきなん著
人ハ一人乃知人ハ不我と労もるとも甚しそろ家人ハ其
我よからぬく我病氣をこしらへる也其そしる家ありき此人
にわあらざるハ今までなるへきくもあらし且德をとし
ならるかれんとてつまい愚ク過をを移し浮氣ときハ名ん労
乃養生をとさしむる也されバこそ好いと安く悩むるハ愚ク
愚とまし浮氣我生まし氣力を勢らさしむきらんおとる病

孫のうへ　問それさもあしき先祖の名をけがさく不善を
なし且貴先よおほ孫すゝて事おほし　おりひよろしかされ
悪名をとらする事ハ道徳の疵ともなるべきか　云く尤
悪くハ悪行おほせつきてハ名残まづまさるハ妄言の雑説
ゑやうへとゐるさとそれおまてくも聖人をたまふ陽虎よ悩
ませらり大聖の人もそ難も大よりてえまちぐことともまちらや
あまり愚かこうを不徳の者ともよろつの不悪りんなと様の雑
者ちまなりよわ凡人の悪行まねりまさる存よせつく　あらくも
とそし去りれとも我しぶあやしくも云ハ云え部もし
一つ疑問て云く不偏不倚過不及なき行中といへる帝堯
の禁中の心法かくのごときしんや　答云不偏不倚ハ
未発乃中といへる其未発よ当てハ此心至虚にしてえ物

偏倚する所なし故に中といふ喜怒哀楽已發の和をも
いへるもハ此れを以て万物の変に應ずるを從として中あり
おくをこそいふ事なれは過不及なき也中也者天下
之大本也といへる中ハ天地人の根本といふ義なり他
をとるむへからずあれは備されたる本乃解ハなし中とう
ちとよむうちハ物の主也禁中とうちとよますしといふ義
なれはうちとよみて内なれ中ハ人乃別名也人といへる
空にしてくるをくらずして真の性とかつて至誠にして中也
名付給へるまま中ハ思ひよつてもあくまでもなし寂然不
動にして感じて天下の故に通ずるもの也
一　人ありて問云今乃世の幼少乃子また大方知藝能あるもとしむ
うしハおろかなる事し勝れたる様なる者あかはしいはぬかい世間の

一人ハ次第よきより拙く事ハあく後ハえげて仕度なりてゆく行

発云ふより田(タ)ニうゑる稲(イネ)も勝(スグレ)稲ありて取実おほし今

時乃子共の利根なるは稲の早(ワセ)稲乃ごとし物ごとよく成

ほめで知恵乃取実多くなし其上平人の利発(リハツ)よく物ハ

大方鈍(ドン)なる物也されハ人の成人して芽(メ)出し人おほく

ありひとつをしれハ知恵あるをしるゆゑに恥の心ある成也今り

恥をしるものハ恥心あるより紀ハなし恥乃心腑よりあるものハ学問

一よき人ハ君子乃地位(チ井)をもつてかたとひ無学なりとも平生よき人

かくよく軍陣ゆゑくハ武勇(ブヨウ)のはたらきよきもの也むかし乃

まうけ人どもにハ成たる者おほく有しなよ成人よほひて

一僕の用に立ものありき今のまうけ人ハめせども人第

よくも利発なるものつひにハまずしきものよ成人

きらふ程国人は選(エラ)ふへき人をもちゐ人の親しむ者を遠さけし
一 ちさきを恥ある子孫をそしりそしりて恥ある孫をそしる
かれ子孫をほめ愛(アイ)していよく/\ほこらしむ賢才(ケンサイ)は因(ヨ)て元
押らしけ人驕奢(ケウシヤ)に因て長する故世か乱れし也へし
一 老子曰く云人以て家をおさむるも大国を治るは小魚(ギヨ)を煮(ニ)るか
ことし治むへからさる也かきまはせとやかくさはくれはくさく言は
てあしく何事もそのまゝにさしをけは無事のつゝくよふにそを
あをくすくせんとするゆへにかへつて悪事出来る也うちう
治るみちもみたるゆゑしらすしと云おのれか心に納(ヲイ)をたのしまんと
まつやあしかれかんと付る故古来乱る事とまる也かし
治らくおさめ乞得り　答云老子の小鮮(セン)をいふ治るといふして煮(ニ)るか
ことく政刑(サイケイ)のきひしき事すくなく徳をおさめてくつろけなく

人の然可しくらし風俗を易しくたらん上知の事也然に
てよく変のこ好くもしへぞ人情よさりり躊躇位よあり難し
るくその善事乃一倍もおしさあしくなきすくその也藥と不用
して自然無ねまでしとの活ら発りてある病ふ下手醫者乃業
と自ひとく大煩ひとても治らざれしおうれともさ積よ一偏くしい
つまらぎとい頭いぞしてとき又て國天下の治ふ乱とものあて是
そふ知て、やちしき事なれ雖も天下国家とても知るむし
まやく萬然用ひ多然をいぞりを病人よ萬然ならざるたれ
あしきとくうちもて、とき自然無て病とそれ一死ならざるなら
邪正よ臣その上くりまさし悪の源となんて
ちやく備然をうまとろの源然とならそさえしと将ちれて
真の多事よ成て長久なうその也又主将く仁と威成ちら然

身よおさめらく德されば故よ紀綱整りまつりくバ倹と禮と行はれ我以
てうことさらく各ゝあくをすて奢を然ど故よ人ゝ正しき風成ます
風俗以あらり
一 人以友問 敬以直内義以方外と見へく傳ハ聖人も敬の工夫
と用ひたまひそめらる 云ゝ 獨愼むと記して修て天下の擺ぞ
脩く人よ悌とであれし内の直き也 事物よあたりく好むこともな
く惡むこともなく義と共よ從えて外の方なる也
一 人以友問 ☱ ハ上爻の一陰位なく權勢なし 九五ハ剛よして位
あり權勢あり決去よぞつく何の危きこともあるまじき也
不利即戎利有攸往とゆへとふ功利の後乃ゆへり遠きと云
もとより德と知ゑふあくれとハ處をとることあらし
云ゝ 志なり剛ふして剛と用ひぞ一柔の微なる決去こと易なる

適したれども剛にして剛を用ゆる説によるときは實に仁よ
おしむる故に使ふときは治化大なりし天地位し萬物
育せらるゝに至れり是故に堯舜の神武にして天下の兵
を挙ぐ三苗の誅してすでに何の危きことあらん剛にして
剛を用ひて使ふときは得後ることしくやすらかなる事悠くと
しかくん服と詩にも服せさるかたなし小軍をかへし文德を
修めて後に乘し後へ兵は以テしの力を用ひて服さるゝこと
と謂し後にびは是夫の剛にして柔は使はるゝこと健なしこの
謙び使ふときは和く柔也君子乃小人を退ることかきを断亡
さしめ和らぎて和にして道をを弥てその非は以改めしむ是下
小人の道を治るに付て使ふときとして失ひたるもの也

一 仁者問て云 静幽に常に堯の君に從ひ後に陵に三二は辞せて

一

古今あれども賢なりとおもへ天下道なき時は隠るゝハ君子の事也
なり常変を兼てハ中なるまじき義ハ賢者の何の時にも応ぜざる
やうに世の賢なりとおもふ所ハ富貴を辞し山林を楽むの
清んぢ独善なり大家の諄せおもしく出家すハ何ぞや聖
賢中程の分とおもへしりてその理を志してこそ　蕃山大家の
者への召を応じて出る天禄ハ浅学弱才の易に所謂ル十八萬ハ不
家食吉也乃義也道徳学術を内に積て聖王賢君の時に
あひ礼有て召給ふハ出て天禄を受べし故に不家食吉
て吉也といへて吉凶ハ俗の禍福吉凶の吉なるハあらぬて吉善
の義なり内に積るくりつる所乃学術道徳をもつて時あり
旅して天下の艱険を救ふハ天下の吉なり又新ハ其大和
なく其ハ小内なりし天地乃大なるもし道徳の中乃一物也かく

のごとく学ぶる者ハ人の心中またくりかへし士ハ賢を希ひ聖を希ひ賢
猶の段ハ天下これ其利を利とし其楽を楽しみ無人にて故
ハ利とるへき利欲の利ハあらしもて利欲の利ハ己が利とらるに
人あれハ利欲ハ害ありといへともて聖賢の利ハ物我利とする事なれ
ハ天下兼済する聖人の心ハ四海一家のおもふく中国一人のことし
我身ハ天下我利とする道徳のごとく行ふ事に進まぬ人あるハ
百穀の無人ハこれによりてまことにつくへきもの関撥しるものごとし
何乃心のあらむや許由子陵ハ衆人とねたまし放下するハ
凡人のいふ所を清明なりと云ハ聖人にも善すとも皆し許由子
陵これにつく我を朝に立てべく用らるへきさ也なす所の
庶人とともに独り道ハ行ふへきハたのみ狂見ならねハ
辞したるとみつるにてもしも知器量ならねとも狷者ハ大意を見

て廣大なる故によろしき豊饒にて代官也是ハ代年近也
ゑん山水田舎の所にあるゆへ何の樂も是なりしらんや
ノ人の代官とせしと云ふ事ハ二字あれ此二つの内にあるへし
問 ䷙(タイチク) 天ハ至て大なり如何して山中によくをさまるや
云道を天よりも大なり人の身乃中におさめかくしたる
又山天の象なり
一 漸卦問 進て賢をかくさんと学問をして真に利欲に
なくハ礼儀をそなへても貴人に従へき事なり 云 咸(カン)ハ男
女のしたしくなる男女なる卑(ヒ)の
礼儀を正しかるへき事なる卑妻にて女代ぬ(スミ)まへにつくハ陽
の女なり陽の陰に先たつ門の義なり親(シン)迎(ゲイ)の道理なり
夫乃先たつ門にて賢りくるも天下治り男先へたつへく

夫婦和し賢人ハ下ふ之とのへよらも臣よりも主人をすゝめつる道を
まつぐよすよりうるべき義なし女ハ男ふしたがふもの也
とらも男の禮儀をもつて求めんときハ女ハ従べしとみちびく
なりし咸ハつまりて夫婦となる是神のちから故よ男下女上
也恒ハ久しきをいふてよ夫婦と成てよ男上に行て女下也吉ハ
天子とつくる賢臣を賓として賓の神と君先まつりて礼を
きつくあれ其後まつ宮いまし陪せしむる也そのさ壇に見ん
て天位をさかへ給ひ吉をまさに天禄を受る所也
君臣の明る也易の卦爻五を君として五より上九
の位置て賢臣を賓として家の蠱也蠱乃上九ニ曰ク不事王
侯高尚其事觀乃六四ニ云觀國之光利用賓于王吉とハ賢
徳のある人君のもとに賓として敬し給ふ故なり主乃王

職ハ仕進をもつて貧富をもよふすへし如此あらざれバしまハ
まはらでとあるかへきハ
一 凡友同遯九五ニ云ク嘉遯貞吉也と九五ハ中正の位なり遯れ
たるのこころふかからざる如何 云ク大象ニ天下ニ山有とて遯
らざるあれバ遯のきはまる也 同好遯君子ハ吉也小人ハ否ニハ
何ゆへそといふや 云ク君子ハ義を見てよく遯るゝ義の遯る也
き時ハ好遯をも伯夷兄弟周伐を諫めて海ニ遯れ一文良の
義ともしくく首陽ニ餓ゑれ頼也小人ハ世間もつしよもる
使利ありとよく遯るを好みあるひハ仁者のはうさなく人を
欲ふ見ん已ニ惨して遯を好むといへ共見をたもつて小人を
否也 同道不行天下乱世わろき何国ふの遯るゝへき也
云ク悪なかて一元人の業なかしらハ帝

中に避玄あり忘れはさましく避尾しるく從なるさこその深し
晋の劉昭ハ酒に隠遁すといへとも實ハ酒に溺れたる只
一生外見を酒乃ミの用ふなさずとなりて終に避なく
となり終なくしてのちおくそのもとおほくハ貪賤をかくし
玄ることを

一 或問古人の俗に謀從衆則合天心といふハ世俗の俗流
俗の辭ならまのおもハほしまれは俗つさくハ天人に合へしとも
行ひこえとし 云く衆乃志くらいなのそのハかならすしも至當
あり謀といふ時ハ理をみるき流俗の習ふなる事にあくまろ
ことなきさらうかるへし

一 或問仁者必ず勇あり勇者必ずしも仁あらずとそ
まうく宮えにハ勇武にハ善なきにて不仁なる者あり小牧の弓馬

ともに死をおそれざるも人倫によらずまことに義あつまるは仁愛
ずして勇なし仁人ありかならずしも勇ありとさだまれり
勢ひあることをあらはしたるを云驕奢(キヤウシヤ)なるものハ仁心仁愛なき
て怯弱なるもあるべし是非終にハ不仁なる仁なくして且勇もなし
然るに古へよりいはれ日本ハ仁國也かるがゆへに勢ひを以てあらはし
勇をあらはし日本の弓矢神とあがめ奉る八幡宮ハ應神
天皇なりこの御代ハ八道臣ハ悉く武勇をもつてまもり
らるゝによりて此君臣乃子孫まで人々も武を好む事あ
りて天下に令せられしなりこの世に平清盛(タイラノキヨモリ)受領の者位
より武功をつくし進みて相國に至り終に天下乃權威(ケンイ)を
取てよりかくのごとく武偏(ブヘン)をもつておさまれ平氏もひとつのよ
二十年の間に武勇すくなく後へて木曽白義仲源義経など也

とく云ひけれバ源氏関東より起りて家紀の平氏を討ちしてよりわづかに小家よりおこりて関東武者は剛強にして上方武者は柔なる様に優にかゝらしめられけれども楠正成は上方の柔なる中よりいでゝおこりて小勢にて関東の大勢を挫き世人こぞつて鬼神の様におそれあへりけり王代武家始終人のかゝりあるにつけても東西漁獵盡て世に有るするのほど死をもして贅豪の風をなし人民をおびやかしける武勇の誉ありあれし仁者はかならず勇あれどもかならず仁あらずや其終をしめ奢を極め国たもちがたくして人民をなやます事ありこれを始くそおもんじ武威にして民をもてせめさいなみあへるものどもおほく思ひなく一向ふれたまふものどもおもへる奢つゐやしくらうになりて武勇を先として滅さる事になりゆくはいたるもなかりけり向

義經正成軍法ハ法をまもりの備をさへ備ふるや　云正成ハ義經よ
りまされりといへり是ハ代々義經よりも勝て勝處位に意せし人也
備のはしめ今とは世中の時勢大にかはれり正成乃上手を
こそれ論じ將伐似せらく將乃器量をしらべ勝負の利も
こらへずハ大負をとるへし　問甲州流越後流信州流なとゝいふ
事侍るとも如何　云ソレ三家の中よくよく將のさとくれたるハ景虎
なり功者にて信州甲州よりまさりぬれど負たる事ありしかとも其代の
軍法ハせり合の手的なり小事を知るによるへし　義經
正成義貞の備にて實乃合戰ハなし　武道の事ハ語へからず
故なり　問治戰の今の時處位とせんや　云將の器量をも
て勝負の利をしる人古今乃時變を考へて其事を捌き

一 或問君子ハ大受をなして小知をほしとハ何そや
云く大体にをいていふの時大人といひ小体にをいていふ時ハ小人
かくいへ君子ハ大人也天下国家道をもて徳をおさむるにいたれハ
ちゐつかし 執へし国家天下道なくて事物のおさまるよう
はなし圍らるゝ魚のいかにとしても大小わかちも小目の網とて
又小魚ハ盆山の水にやしなふへし鯉魚ハ出泉の池に放ち
呑舟の大魚ハ大海の不測におゐてそのうへし鮫魚ハ鯨鯢の中に入る
ちかひ躍りていてしまふも呑舟の魚は池にて殺され
郷にて螻蟻のために制せらるゝ故に君子ハ国家の
大難ははらひて天下の大患を解治せしむへし広大なる
小事にて用らるゝ時も小人乃なすめに帰るよし小才をとも大事に
用らるゝ時ハ鼎の足はなれのそこまて乱のもとゝなるへし

一 人ゟ問非禮視聴言動をいましむとするの義いかゞ　答ていはく
禮は天理なり人欲の私ハなし天理流行ところの儀則
礼視聴言動せざると云問言と動とハ己より發ところにて
きはこゝろを修むべし視聴ハ人よりむかふものなり悪人盗賊
淫声乱色人と不言のふるまい行なくてハまぬかれがたし
かくこそあらむとの　云ふ兼備遂者をやむべき儀也などといふへき了兼
いかなるわざにても山林をのがれ見えたるやうにも見えし己か心天理に
せざるわざにて非礼をも見ざるといふとも不見不聴のこゝろし寛
兼ても天下儀有ることあるかたまりて見聞やかましくあるべき事也
のなるや

一 学を問答する人学をもつてするにたかふところ常の学ふ所
にいふところハいかなる人に学の心をしい学を知新の字をもつていふ

者とらゐ聖人の学ハ心学也ともいひ日新盛徳ともいへて
いはれふくし義理ハしくあらゐ然おしくつひをゆり
らふ学をすてゝ学道なうもち道なるへし儒道ともいひ心学
もいひよる名然くりかはて病あり道を天地神明の道
大虚天地唐日本ちまよ一貫にして二あらさ学ハあやと海
まうみとなかり人然離るく学あるへきさ様なけを見世の学者
見が益ひて人然かふとる者ありあふ人の学を加へぬれハ
るほ理なまさふあるさしとも地の理とろへたるる理へなり
一人安何獨然修ましと八独居の時もも人前のとく作法正しく
とぬ事ふらく得る也 一さらひハ誠一家もし独居ハ文武の道と
学ねり人前と獨居もも同し様ふらくハ甚さ窮屈にしてく
遊うろへし 云人前すハ人ハおの則あり独居すハ独居

の則ち何れて事をよせんやその上獨り慎むて独知と注
のんも古え文法易簡也一字をぬき〻二字の心をのべたる
例おほし中ところく書其中にあり獨心とゝろく知其中
にあり獨あるものは人お独居の趣くてなし人おとらへ
ともと我心の独おもふ事は人さらに知らぬ事なり古人の
独知ぶ亦能慎むにと外の審慮ぶ頼ともし思無邪無自
欺誠意むおらる〻慎獨の義なりんより一念発ると要も
かぬくもて自知也も慈自知る知ぬ知ハ心の神明ふして如
善也なし始ふよく善也を照もと見ぬぬ味ゞぬくしてよく見
味ゝ後ことさに人目ふ見ぬぬをふくしてよく其をゆるち耳より
聲なくしまくよくぬをん後まくこをとしこの知をくよ独知と
きつぐき人をとしるくぬれを法無ハ慮德性の義なるぬれ

恩を知るの官なりといへども天理自然にしたがひ出る恩なるゆへ
しかるに人欲の私にしたがふてあさましき恩を施すなり故に獨を
知に懲して私欲の恩なきは是を慎獨の主とし
独知所慎して不自欺時に意誠なり如此なる時は心廣く
體胖なり浩然の氣天地の間にふさがれ万物我に備
はり天地を處己となすといふべし

一 或問箕子周に臣とならずして又洪範を武王に傳ける事
は何ぞや 答洪範は天の禹王にあたへたまふ殷の紂
無道にして獨夫となれはかくる據へに天は天下を代て武王
にあたへ洪範は聖主の天下を治むる大法なり天の天下を
持にいふ人にはつたへし何ぞ私の恨をうらみのこし
かんや平氏三種の神器をもて西海にへしたまふさ乃世

道をうしなひ地をうやまひ古今のつゝしむ所也箕子周に
臣たる事をいとひて朝鮮にのがれてしかも周の禄をはまず
殷の世に生れてその身一人の義をまもる也問云訪于箕
子とあれば武王これを師として箕子に就てまなび玉ふ
たまふ也箕子をはじめ箕子志を成し玉ひてむかへられん事
をはりたまふへき也朝鮮に封じて賓とし給ふも臣たらし
めんとせざりし也是賓に忠恕の道ある
か云云武王も箕子の志に随ひて其ことはりにかなひ
をほしてその忠を伸る也后をもおもふす事人よりわ
いちじるしく武王乃私を成され賢を尊ぶ上乃天理
を伸る事やいはん箕子も独夫の奴となりて天子に臣
すべき天子の代を受とも天理を伸る也武王も其はかるに

ざれしん天の作あるとも天の作にも

たゞ獨夫のこゝろなれ人々は禮を厚くし給ふゆへ之に從ふ經ん

天理に從樂しむなりその實を一なり

一 或問湯桀(タウケツ)を放ちて德に恥るの言あるはいかにしてぞや　云之の

うつの名は湯(トウ)の聖德の疵(キズ)となして恥るゝところや

雖ㇾ然湯(シウ)の聖德堯舜のごとくならずして桀(ケツ)を恥べく悪となすれバ

ことならずしかりしまうつて殺はつゝしむべし德變

舜にならんとして恥ることうやまく悪をなすことを甚して

天命のつきし桀王をうちて天の罪をとりてけるは湯の德の恥

るところなり　一 問武王も紂を伐し事あるは德に恥る乃言なき記

ざるはいかにや　云武王德に恥る乃んはなくして湯の猶言

か　つたればその言なし文王いまさきに紂を伐つことは以て爲也

ぬくんで武王の德乃文王におよばんして紂の悪は明らかし

くもりたる人ハ誠に恥をしるなり

一 人問曰むかしより我朝にも博學（ハクガク）の儒ありといへる人ハたれそ
近代真翁にいたりて藤樹先生こそ性學の聞（キコヘ）ありけるとそ
聖学真翁紀の端をひらきしハ何そや 云萬里の海へ一丈
よ竹にむかふまあるハ三尺の劔を三軍の渇とやむつよ
るかなといふへきもの也

一 朋友問人これを和學といふとも見事なるこの人ありや 云
西之見ての和学者ハ義理なかくされは見えまり小人の和学ハ
義理かくさる恥ともしらす和様のやうさそとさとこ
の見らるあれハ童女の和学也とゆへに貧賤（ヒンセン）乃中ニも親（シン）類（ルイ）
あらハ我和学あしくとおもひてかへりこころみハ我身なりわ
いにしへのねとの和学なるへし見事なる身

とかく生まれて仁なく義なし和学ありしき事なり富貴の
家は鬼子(ヲニツ子)にならむとのつるもかやうのことなし生まる
き事とて人のうらみをうけまさりて先祖の積善の餘
慶(ケイ)によりて富貴になる事なり親類それ先祖の子孫
なり貧賤の者我先祖もよくへし恥ある事なかされ
者(モノ)なりとも常に忘るゝ事訪(ヲトヅレ)べし貧賤の者をみておかし
一 人の助事によつて大なる益(ヤク)義なり結でよきもの也人感(カン)じ鬼
神もよく見る事なれば学を思ふ人はよくあらされとも和学是
わすれはなし
一 学友同程子(テイシ)云人安重なる時は学堅固也と云へれば我等
あさましき生付なれば入德の門也と云歌乃
静なる所をつゝしむ安重成は非ず心活潑流行の

体なりゆゑに此なりけらくやゝかしやまさらのあへしやまさるざる常也
安重その中にも山なその体なりけるといへとも草木
を生しそくやまんに山澤氣能通しそく泉あり流行静
中よありかなる故人よ安重ハ動静ふよらん心定まて無
欲なる時ハ自然ノ安重なり

一 学ゑ同きくあゑさしを言ひくといふん　云志ハ義理よ志
を取る人の不知義を以く義をやめる事なれあれ学の
はし先なり

一 心を同しく因人ハ詩歌句ゑ玄をもへきやとも云ひ得まこし可也と
のまんへ其眼あをんは五七字乃上よ一生の精神(セイシン)を済いやを
連城乃玉ゑ持く進(スヽメ)ふあげうつあそしとの語よハ何そ
ト 云世る善ゑさあれことも哉不知君子を甚(コ)なりとしてくハ

無事然思はんにてハまさしハいはんや詩聯句や昨日の人ハ
善をなし延べき人なりとも一人の聯句者詩作とそなりて
志を失りんと覚しかるべきや
一 儒皮問世なる知ずとく事ハ道なく末西ちに何とそ處
を取道徳なるべきや 云聞云巧なるハ凶なり拙キハ吉也必
世なる知ず巧ハ近しむハ凶なり吾子云ふ拙きハ吉也又云
巧なるハ賊なり拙きハ徳也と世なる邪なる紀ハ自然の理に逆
し吾子徳をすてゝ誠をうしなひ身をハすてゝひなり 問
有徳の人乃時に不合して無残世なりと性合ハ乱世に合
くまる事ハさもあるべしやけりへの聖賢人情時衰に逢
し給へるハ拙きといつひきかくむ 云人情時衰に逢
せるゝ有徳のもなりと生れ付者ありて道をさまれそ

名ヲ利害ニ入テ世ノ智ニ成ナリ世ノ智ヲ知テ真知ヲくら
まよひて人情時変ハしらさるもの也世の人皆かくのこと
ゆはあらそひ也たとへハ有徳ハ其知あるによつて也それのみならす
なり人我知人のするにもあらさるものゝことしとおもへとも
なき事なり無欲にして志有なり回ハかくれて今の世の智ハ
有道の代りハ用ヒ人々にさるゝにや　云勇路の代よハ子路の勇子
貢の無も用ヒないにや人ハ漢や今乃世の智にや
一　舊友に告ニ云貴敵常ニ巌牆の如くなり一世ハ今よりよ
けにとも我我さまんか　云何とい事そや　云未敷人
に對して無礼也又怒次の氣ありて我をたゝかふへき
巌牆にあらすや今の人ハ華かにわかれさりて此の
又ハ乙とわかるゝにあらてそ兵又は乃ちとあらん勝

てを負てもなく死なり　云喧嘩といへともあやまちげに
人をきりて切腹せんハ犬死になるべし　云まじ敷いはまじ犬
死の理とおもひて怨恨のために命をすてる者のかれおもへらく
すれとも此儀は死ところなりかたきうちなどするとても犬なり
あらそひかゝりし古人も喧嘩をいましめて死の理を
ふ方勝そのおほしくいへども是義無礼のことなく気あれば
常に無理をとくいへたる勝しなば必とくにいへるまで武士
たる者の干城たる自然の用に備へる君子なるその禄を受
て私欲の為に気よわくもされてなく死するハ不義なり常に是
礼なれは人道にあらずして戦場にて死する者何ぞ必ず乱に
死をせぬもの死をせさる義あらず死ぬる也君子の義死
理を害し殺戮をなく義の為に死ぬる也

一舊友に背く云ふ者は必不好人の交を取へあり方の交際
よりハ悪しくなりやすく礼儀をうやくし嘉信は手等乃
ちかへき事をかつぎて人あひくく後ハ好人といへ親も
なりたる親は家人族人ハ凶人也と知り又是此凶徳數多
をなして外人もなきと一乃冷高あるゆへに百害生して
凶徳とすれハをも数の故者を表裡（ヒヨウリ）せり外人にはめにかとも
家人族人者人也とむかへて此人に親ハあしき事はとも一の
徳あるゆゑに百無益して害とむずとも外よりもすぐれた
内よりの見ろんなり外よりのうちも乃紀ハ天道鬼
神の禍（サイハヒ）きる所也故者も同じく不忠たるむさき者數も
同じ事に凶ものへ種し

一学文問儒佛の譯によくよくたくく仏学不くつかくへさわりゆへに

彼佛とあらそふをもつて吾道とおもへるはひがことなれ儒
をしらざるべしや　云彼と争ふは學ひて非なり甚
上儒佛の辨をねむも道と見すてゝたゝかふ也　汗
漢以濯之秋陽以暴之皜々乎不可尚といへる玉の寶た
ふかく我をいふてまもるは是を乱るべし以て利
ゑせ儒は仏學をもまなびて仏者に博かたる彼を非とせよ彼佛
とならふといへん彼仏我敵とつよく則孟子佛者もあらむ佛
者に儒學ひ教くあるまじきものあまたし真実にあらず乃
まことの我身をもとうしかくもして理をすてゝあらし
今儒者仏學をまなぶとも又同しかるへし自己を以て深
仏の行さ可なりへは悟りて我仏学せざれとも形容行
跡をみんにそれにしたがつて其ようくは吾身をたかめあき

をいはん佛学流おほしといへども天台と禅にきはまれり
天台ハこまかなり佛学のくはしき事禅よりはまされり
しかれども惑あり禅ハ学なけれども近く佛法を得て
要領を得たれば惑すくなし寡欲無事なるべし　問
佛と一向といはん　云佛氏の学ハ死を畏るゝより起れり故に
おのれハなくやすく禅さとりのまへにして死を畏るゝより
儒者ハむしろ聖学の徒ハ死生を晝夜とし常なりとして畏る事
なし故に死我いはん　問形跡つくれ見えずや
云心迹を形とし気とのみしるつ亜のとす佛氏剃髪人
倫を棄てるを輪廻をまぬかれしといへり天道輪廻さしおきて
輪廻といへるもむかし鬼物かえりくるといへる者あり

云眼瘡を化する也白石鈔に臣作りんぞくとしけるのよし記せり
えるる理者あまたしけ侶ありて其感によりて流理の念をおこすこともあり
むかし輪廻とかるゝこれん眼瘡也流世乃佛者けしん瘡を
ちまく輪廻ありとおもへりまた文白石鈔の流理ありて其
信残ゆりとけ事あき故より出家してまねきあんとくと承
真實道心乃出家をし輪廻を免る理をさとらむとし一日も出
家より信をとへのとしれきるまく儒学して輪廻をほくふゆう
坊主ありて人をもあまたひく渡世のためあるひは芸能の
名傳をなひかすくれく学力をそへてえいきかぞあつまらす
後もおりしかんもあり
一 學者同心学はなりてくより儒学の實理をしらぬ故に諸儒
のかけしへかれまいるゆへ儒の道を年ほ今まで

まゐらせ給ふべくもなし学ぶに因縁さへ申すとも無ことく成
たゞしへなりとて儒学ハ日本にはじまりへ禅学ハいふまでもなく
ひ給ふところ給ひもあれバそれ学ハ禅のさかりまことなれバ書
たま虚なしとぞあり給ひ者まじりて云さへあらんやうきて
世をも次第には文明よりまへより唐よりこそ見初て仏流なうく行く
ひ給ひありとても徳も次第にとなりへてもつて禅学なとの
こと思ひ見なきも物ほど極めまゐり切なんそれ人ハ易簡なる
事ふかうも易し一向宗の如く易簡なる立流なりとき見
ま帰しこゝろ者ある深し浄土宗日蓮宗も妙を一向の易簡
おもくひ給くなりぬ是非文明にそうぞく地獄極楽
等よく説て説信をとりて事ふかうしあれ給そつまくさだめ
通し当宗ハ出へぬしきに事なく易簡にして〳〵しかし是

まことよくされを活生の地獄かくいらんあれハ文盲のはゞかり
あへて今の禅くの愚文盲輩のともから誡しめて妙を
云ふれ利んより祖師の傳ゆふうむまりての事あるく
いよいよ道よありて他家ハられとされ侍べし　四要の
学はくうわさくして人の志ふ違して　くふ玉すふひ給
まわるゝ　むふきけかりしさてくらり云よりてしびとくゝのか
に成ぬの法圓寺らん獄よひえまりぬの八歳なるらび
天九十月よ未代まとくまづふまぬれとけ開くて寒ふ
さるへらむこ吾を最ふうつれあまふまわをく罪代ぬくを
まはま面ふ長し年月の見ふ実代むしらびく世を無量
ぬるの世帯の學まとさんあるて妻の家の氣塞無りうて
浮世かくつれらくあらんのすゝそのほすてくゝを知ふる也

達磨の佛心宗世にひろまりし事も久しくして毒害ならず也
も其身死して道を後世にのこし盛なり異學といへども
其徳あるゆへ也

一　不及問儒道においては経傳に語りひろめしう云ふ道を
真とす人ハ天下をあらそひ天下ハ力をもつて物の真ハ高慢をなすれバ
論ぜず我道においては経傳をもしろかりつくしあまり
語をもくあつくへしあけりし紀達ハ佛者云道のうへ
盛なれハ天道凌の理なく乱世ハ達てく未半云ふあへとう
そこなく爲につゞりくへし乱世の言ひいてあまさう
おほろへしもあれとし法ハ今よりかしらへし　問儒
法ハ年に一度忌日の精進あり毎月精進せしむ事ハ
仏法よりおこりたるや　云経法ハすこしかれともきさうあり也

無りむしろハ出家の作法しるハし雑念よ場ふ当向こそい
もくなくて年ふ一度の精進なく僧のよし紀業すゝしれ利
ほ世むし仏法渡世成て法をもて識也かつを雑ハなる紀乳り
拐主澤山ありて時来すゝしく親の事なれバ毎月お
まひもしろくよみ返へしたまひてかくなりたるといへる
甚敬せる時の月日あて終身の喪をまへられしその時にそ
たれバ毎月精進をつとむ理なし　詣りし孝子ハ不用なりしれ
家とせらるゝ人ハ僧ふなりうつく可なり　但一年ふ一度そ
ちつとめそのなりといへる者もといへん　又忌日ハ終身の喪と
て親死したまひし時月の日を終りあつまりごとくおこなふ
なり晦日の家にも吉凶ありて孝子の人ふ親と死せらるゝとせられ
いまうる時をとてなんだかうしもうしとも神として祭らい

釋奠して我か儀も神に似たる道ハ是也神ハきらしくなと
まハきる所ハ事あまたむくし釋奠して寄る事ハ春
秋に忌日と二度なれハ後世四時ニ成て五度となれり
その節ハ五節句銘堂の評ニ備へ不審くく釋奠ハ
世の人の為に生る時親の所へ礼よりみ孝行あるへ八八景の
たすけあるひハ童子の孫あるひハ初寄書代ろ為へ地
初のいとまあれハ内かく又葬して絶事ハ其のみへ渋
めく教なるへし年ニ一度の忌日乃御定置旨礼也
神道の葬なり毎月忌日なれハ祠堂にて吉凶祠の事
精進をもひろよきなれハおもくしれ故ニ死にてハ不用なるに
懐にふれハとりつくし死せるにしたかふふれハとなく
ともなきなりと古き年に一度の忌日の事をなすの

もて見てそゆり三年の喪乃中ハいり出れとて喪を深くハ
きんさく背れの非道也是自の為にかし紀道理也 諸世孝子
の廓(カウ)語(セリ)より一段ふ一度のこし親乃死をまて[illegible]る事とおゐ
ほし出して絶てその喪乃ゝにしてハすくしも義といへ
ぬしさくるしかるしとはしめてる事もあるも今時絶を
たしぬ是日紙も為ゝは道理たる紀事也 同書元出家よ
ト紀来にてかし絶ふ事ハ何のきやとゝ場をハ元土出家とて
居る者とり為てしりやいまうんして此何とそつきや
一 ト文而今乃武士のとし紀とりハ弓馬兵法をよし[illegible]に書
数とねまいて是居まり武藝(ヘイ)しとの中乃用ふ為一事しハ道
筆あらハすの八ゝけしいかすゝり世為[illegible](クワキ)ハ出覧とのりとえれい
武士たるし遊ひ良斗ゝそへ也 去見書ハ小関なるくも也銀段し

異国よりも望む上の人とも武国なるゆへにそ武士の武藝を
奪し立むは国の禁言国なれは遊民といふへし武士ニて
つとむ武道武藝のそなへしなくては遊民なるへし
一同言利文冊のくたりて異国の龍とせさ修る事を
承さて何弓刀とて人は代すへし守てくるさ謀し
申ねおそくむつくろんの云ちわ小敵を知てをしなは治
一高し言利文冊は邑病なれは治りてしけ内病乃
まくろく根本を人心の病よりひとを庶人の困窮かるを
迷ひさけ国窮やまは根残絶へし仏法乃修生のまくく然
小なわりくされの病さる法残修くみちむく然風事
竟仏の法の言利文冊の先を達さる中要は制禁なけれ也
まくしる事あくつ仏法堕の喩のまく破しまひうくも学風

なり。聞ものも、其見る所みな儒道と心得べくなるべし。貴賤は士也
深得ひんり　云たる其の理をしらざれば、いまの儒道とは儒
家の一名異見の流と云べくいひかちの様也。法は乃
儒学も此国の水土に合ひかたく、其の法にかなひかたく
書行はる時のならはざるまゝ、まつ世の害あるべきまでなる事也

集義和書巻第十一終

熊沢氏述

五十九

[illegible]巻之十一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

集義和書巻第十二

義論之五

一心友問。孟子ハ大賢なれども徳いまだ聖人に及ばざる所あり
と云。然して学者ハ己が至処よりいへるのみ。故に道徳仁義といへる
ことは万歳(バンセイ)の師たる聖人までもかはらず語に先だつ所あるに
ある人学ぶ孟子の言(コトバ)に云てハ語ハざる所あるがごとし
伯夷(ハクイ)ハ隘(アイ)なりと柳下恵(リウカケイ)ハ不恭(フキヤウ)なり。隘(アイ)と不恭(フケウ)とは君
子ハ不由(ヨラズ)と云り。貴ぶ処ハ一を返すれバ伯夷と師として柳下
恵と学びは語へり。孔子は聖(セイ)の時(トキ)なるをば師とし鑑(カヾミ)とし
語ハざるハ何ぞや。云。孟子ハ天下万歳(バンセイ)の師也。故に中道(チウダウ)を
以ければ人に的(テキ)と示し給へり。清(セイ)と云ハ和と云(イフ)其人にな
りて後可(カ)なり。師としたる時ハ法となり。故に君子ハ不由(ヨラズ)也

いへり予も中道の的(テキ)を射ざる間ハいつかたとも見ハ終ハ帰着(キチヤク)す
べき所の地なけれども予いまだ凡情(ボンジヤウ)をすこしもまぬかれずして
学乃至極と云ハ聖心よりいつる不思予又後世(コウセイ)の師と為事(こと)者
ふ何ぞし一日も凡情をまぬかれて君子の名をねがふハ終身の恨
なりと君子の廉恥(レンチ)に進(スヽ)まんにハ予が実ふうやうニ人を師
としなどせんふハ之らし予が実ふうやこゝろハヽ包識ふと
せまりしハ伯夷なれバ故ふ当(ツネ)ふ心の師として人ハ人と交る事ハ
本君会歎(キコレウ)ことろくにて狂をひろく流を遊(アラシ)て包荒(ハウクワウ)なるべきは
柳下恵と学ふにハ及ハすし孟子ハ後世の為(タメ)に中行(チウカウ)不易(フエキ)の
則をさへける予ハ自己(ジコ)の徳をおさめんが為ふ益(エキ)を求め古人も方(ホウ)ハ
汝(ナンヂ)が所にいわゆるも以て名とみつくしぬ所をとふ宗とし己(ヲレ)の位に
まりてそつくしもて以へき所からり先覚(センカク)人名医師(イシ)ハうれふる

濁と浴ともかに便わる人と求るのこゝろ時に清和とともに滅わるも
一心友同子路ハ曾子もとともし人世又万歳の師なりハゝ一命ハ
子路ハ衛乃難に死もと死せるハ可なる事ハさるハ不可なる
孔門乃賢者にハ不足なるかゝなるし云子路の過わる時にハ
まつ我若さすゝ人わればハ中心より喜ぶことハ自己乃非
と知て是まつハ我改しるときとおな是らるしこれ万歳の師とする所
なる人情の太ふかるふ所なりと事と好きて仁義の学の志わる
一人の不幸を殺して天下と得ることハせすことおもひハ学なる
すと義ふ当てハ一命とともに惜しとさへきし自己の過と学
まう我形かさ不しを成て業と求るさへとも何とも過ぬ若さ
らするハわまつ過分なりとと口ふハいゝとも中心より喜ふる悦ぶ
わ所に哉小人もも告るこ我らのしまかる多ハ知さまむこ天下

此通病なるもあしき者ハ過をあらためてハいかるしからさこし或
をかざりなし徳を好ことを好むことなしさる此謹擇也子路
ハ賢を賢として其ふところへありて後世道学の名をのこさる人
多し中に也子路の過を聞て喜へる如ふ及ぬ所にて通ふ
衛ふつこころこそその過ハすなはち人さるかその事は
予ゆるさる者しれとも行へし其難をまぬかれての前ハたかふ
武勇のほまれありて身を捨て死を安せし事ハ又かくて後世の
勇者とい義をかけさる者は及へからす子路の行ひし
吏ハこころかなふまじきなれとも過といへるハよしとこそ也
一心友同十へ舜ハ善与人同舎己従人といへり大舜ハ神
聖なれハ平人へ多し賢なるとも舜ハ此徳ハ十か一ふれ
なへてのみ古も又舜ハ古ハたかふしてんかの古ハふかなるし

大徳小徳ハ人の心をさして大善と小善とを定むるものハ仏なり
云大舜の心ハ空々如として天の蒼々昭々たるがごとし鏡
此虚明にして一物なく万象を写すがごとし心中
悪なれバ心のことなるべし善もつへなし小善もなく大善もなし人
小善ハ進で一枝の花ハ鏡に写りて有るがごとし其
好色として心にかゝるなれバ鏡中に花すがたの見ゆるがごとし
然るに舜は心に善を有といへども心にハ愛なし人ハ善と愛
の善に随ふ天下の善を許容して其法所に随ふなれバ
てみいのも周の国家をも治にわ是へ絶ちとりなさんハ
舜の大徳ハ常人の小善をも好み取用ひて小
して自己をすてゝ人の小善をもことし自己に治め大
善の心とすて人の小善にまゝならぬも

わかれ衆生の如くに一善に有せる事を見れはくしくあつて取
つきあけて其の所ゆゆく時われは胸中より発出して是を
人にわりてハ小小なりして益となり衆生に用ゐ一度大に
成て国家天下に益ありとて人のいみなるまいらさる
かしく不知者ハ居まのことなり五倫を見てみつく時ハ王と
なりて宝にかさりしなかに天下の気を用ゐかしよかりなる
一心友問ニ孟子ハ斉宣王の善と為するといはれしものに
揚氏の説と墨子も取用られしかとも天性本字にして
好勇好貨好色好世俗之楽とおほしうて道を取て若と
かくれはも心にもわかぬ大言を為て人を欺者は典に衆生の
心よ人ゑしくはは害せる道理に叶せうまかいかに先これを
以てよろしく人ゑへるとも紛ふはおよそや子孟子の斉宣王

昔と為ふされつるといふ色ろハ半紙見てく華ゝと不見いとかたし
すりおろハ仁心を以てなれり宗まとのそく初て富天よ彼兄く遷
て去へき志わりそすろハ貨を好ミ色を好むなしいふ恥の
心うもた人なるり故也懺悔とうしとすろハ戎狄の風か
つき戎人ハ仁義を不知して輪廻のことを恐ろく執着なるむ
こゝろ欲をもて前悪を懺悔して後寂滅を祈らむとす
その聖ゟも戎狄の学ぶして八可なり仁義ハ学ぶまでもなくハ不可也
仁義乃體的なる者ハ恥乃心なかるし恥の心ゆゑをさむるハ乞玉悔
懴て非を改め善ふうつるのみ欲悪ハ凡心をまかくみていさん
と欲もされもとつくをふほわる其恥の心なまいなが懺悔せ
されもし改めうつると以てよろしとく懺悔しなる者ハいまくれなうさる
然されたまる歯恵えゐうしあく終ふ悪を改め後善ふ移らさる

きみのあやまりことわざに鈍刀（ドンタウ）骨（ホネ）をきるごとしといへりいのちのくるしみとし仏者（フツシヤ）
は懺悔（サンゲ）して無始没（アラ）あるのに入者（イルモノ）は輪廻（リンエ）といふ見解（ケンゲ）なる故也
小人は刑罰（ケイバツ）を恐（ヲソ）れて悪をなさずかくしてらしむ幼少（ヨウセウ）の子も物恥（モノハヂ）し
て人前（マヘ）へ出（イ）でぬといふものいはぬを赤面（セキメン）からなる子は成人（セイジン）へいへこつさい
て才徳（サイトク）をもとかかうして一器量（キリヤウ）あり人へおめせもよくものいはん
者へ出ることやらてみは人見ぐく利発（リハツ）なるやうにいひまし成人（セイジン）
ならでひて才知（サイチ）あらしけき平人（ヘイジン）なるものなりこれ恥（チ）の心の
厚（アツ）さは薄（ウス）さはなりおさあらて内れてさぬ子は成人（セイジン）の後
宣王（センワウ）のごとくなるものあり庶人（シヨジン）わしては可（カ）し士君子（シクンシ）とあるべ
かくれ宣王（センワウ）は天爵（テンシヤク）朴実（ボクジツ）なして直（チヨク）を以（モツ）て告（ツゲ）ぐかくことなれ
きこといぬるみはいかもとこれは又一節（イツセツ）の人なせを信（クンシイ）ふもあわぬ
言（ゲン）して人をわきしくつりしき事はいかにあいでは欲悪（ヨクアク）あり

ら蓋荒しても是君子ならし驕吝なる者なれハ見るに棄也
小人心とやこれ又いふに不足
一或問何をか治國平天下の要とせん　云　國天下の為よ人
を得るを要とせん孟子も天下の為に人を得るを仁と云人に分つに財を
以するを恵と云世人ハこれを仁なりとし識せられ受る者多し
悦ぶハ人に教ゆるに善を以てする忠と云世人ハこれをいとふこそ
すなと教ゆる者ハ悦ばずと煩しくいふ也されハ人ハ金銀財用を
わするゝかハ小恵なれども喜ぶ事也とて人ハ悦ハ世の常なれハ足人に
道を教ゆるハ忠なれハ恵よりも大なれども教訓せらるゝ
ある事よりハ十に一も悦ばずと又世俗のそしりを招事わりなし
まして世天下の為よ人を得むやハ国の治り天下の平に
なることハ賢を用ゐるにありされハこれを治平の根源

ことをしらハ其本をうしなふゆゑに不仁なる民を見ること己か
赤子を保んじ給ふごとくなる慈仁ならバ人ニ我子水火の中
におちいりたる時ハ色をかへてすくハんとおもひねても席を安もせず食せず
とも味を甘んぜず万民の中にして己一人力をつくし天下の難
とするにすくハざる時ハこれを助くる術を得る人あらバ
年来のおもひかなへ給ハん人もあらバ請てへりくだりて○しばしハ代ハりて
も我これにまさる人を求めん況や賢君ハわざはひに行いたるこれ
とおもへり禹ハ水の溺るゝを見ても己が溺らすと思ひ稷ハ飢るをみてハ己が憂
とし舜ハ禹と皐陶とを得ざるを以て己が憂とし一人の
君子を求るハ万民の昔を救ハんとおもふ同命も役人をゆるされ
任ゆかぬものを見てハ○己が責とおもふべしここにおいて一職位
同類のよく其職につくべきを求めて天下の理数をもつて盛衰を

つね富貴ハ久しくつゞかざれば時代に位高く禄重き人の子孫
もまたそのかたくへひとしされ成に好人生れつきし驕奢乃家ハ亡
らびたる事ハ霊亀の末なりとも人といへどもこのひとしき時ハ微賤の
中小勇智の人生れて在小直ハ営を求て代野までとやや
同じよらし其身微賤なりとも徳をそふ君子ならバ民の父母
たるべし何ぞ指揮にても進てこれをかこたんや　云ふ位
まる任なりしハ乞をこなて大業をもつめ庶人なりし時ハさく庶人
此業をつまらし治する事して天下の治乱より成国君ハ一国の
乃民の父母也天下小及び姆乞もし大君ハ天下の民の父母なりされ
ばハ大君の乞をもつて天下の民を慈愛ありべと為
めこ丈大業の知ハ寄賤庶権をえらびど居としてもむかしより
ようくゆくうとして行ハけいかにもこうい大賢以下の人の知ハ大小

あるひハ才知ひろくして天下の任にたへざる人と一國の用に用て足
都てくらべてもその功なきほどの者あり又天下の用にハたゝぬ人、
かハ率仁として小事には用てハ可なる人あり人を知る有才と見
ることは君子治平天下の勢なりし後世ハ戈の勇へ三而已とは
まいらふせども是なしろ者なれバ役儀を命ずるわざし士の頭と
ならし上に不足てはゆるしとして君子乃風ある人も役ハとらする内
に事調らでともに上生付る氣質の徳までもかしくなりしと有
小事ハ伐らるゝの不使用ハわろうすれ人ハまこと有る心の生付こそ
多くの人と過をとし一器量ある者ハまぎれたるに不使用ハよし不
徳の人も役やうあるく徳出来る道理あり　尚富貴に常人
下は富貴にして貧賤ハ小素して八貧賤を行ふ是大力量
の人ハよく處る大賢以上の人ならでは叶ふまじき事

事道才也よくする事にあらず徳ある人ハいづくにも處をうべし
それ有徳の君子ハ富貴ならずとも淪ならずしておほきにハ貧賤も論
せずつよきをハ威武も屈する事なくよきをハかくのごとくにして
好ミ徳に素して行ひをかさね移ゆく道へし徳ある人これ
と行ひとなし才覚ありといふとも及ひがたし
一國天下を治る者問て云今の佛者ハ貴人の師なりとてうやまひ出家を
尊て民の困窮をたすくる事をバ何ぞせざるや佛の済度
利生のためにハ叶ざるや歳の十一月に徒杠成周の十一月今の九
月なりと徒杠ハかちわたりの橋なり若此月なりて十二月に輿梁成
十二月ハ今の十月也輿梁ハ車馬を通すべきなり農功をへて
畢て民力を用べき時もまさに寒冱すべしとて橋梁なければ
ハ民徒渉の憂なし今民間の道路のほとりに橋なく舟なき所

一 余りに遊民ふえて舟橋を作て銭をとりて人をわたし所々にあり
婦女童子はわきまへなくして施し民の自力をもつて橋をかける
事とハ無下からぬ者までわざとよろこぶやうに仏法の制にかなひ過たる
今の世の末法の時は一つを損せバ天下の舟橋時にたえたるべし仏法
の慈悲といふ事は古の賢君の政道の一事にも及ばず
これよりなほ又旱に雨つゞきてうれへんとする民の自力をかへりみず
余多の民いえを持しうるなくてハ世の中にて迷ひ如何やすくてまよふ
を得ざるはなくてハ何そや　此事ハ分別に道理あり
是をいつる時ハ大かたすへて是を理あるにハ及ぬ民ハ其のま
ゝにもなくハ物の才もなしハ後ハ費さ多くの財用を
穣して己の分をしりて多く成ハ余儀なくなりし古
ハ旱は気といのちも長雨は時ハ大君国主郡主田

保ち給ふ所なる故に其あつかる民を恵していたす
と命し玉へりされハ民をあつく民の財をハいやまさむとして其の
れハ必を好さるあり同しく国の民のためなる為にこそ
国として君たることハ何そや云こゝろハ安すへき道理な
るとも天下を憂傷として人を憐恤し又天を敬して恐る事をそする
君あれハなからぬ道理ハ凡ての倫民の為に心なるらんやと
うへ多く徒世の為に凡僧にハ済度利生の慈悲憐をも
ありて猶ほす故よまつはらねとて無し民のたへいえぬや
まつ小国をく下をいたしゆきて一とたひ国ませに帰するハ
一朋友間をあつらひ同なる其天下を奪ふを諸侯君
なれハつゐに其高家ハ一門なれ君を殺す人ひとし
あふむくる者ハ天下の民を暴君あるとし乱世にはま

さ臣へしも君なくめつとそ後はいよ〳〵興へし諂諛よ志
躬なく又ハわかしくとも私立の人ともみし一門よ高
家をかられ不信の位禄なくさ〳〵とせば久しく内〳〵の
云孟子の曰入則無法家拂士出則無敵國外患者國恒
亡然後知生於憂患而死於安樂法家ハ位禄重く佐輔に
正しく継体の君をは志をも内ハ師とたのミ託なりて内諫を
さゝえしとしを法と変せさる乃大臣なり代々の守にあり
國とても小存亡するも位禄かゝはらすして叶進くし拂士ハ君心
したかハ仁に助て君をたゝしめ君正しからされハ言をあやまらぬ賢
士なり敵國外患ハ必しも戦國の内よあらさるも我とこゝろ
わかハ其よつとを結えんに家のちく佞人をたのミこゝろをのなかさ
様の志邪ふあれハ邪法にて法をしき政をよくするあらハ

主国も父なり彼も吉凶に感して心服さなかれ
同しく心服なりき殷に事れハ心服して私なまりとこ
なりと行ひたれバ気遣ありてたゞしきもなる君ハ哉
よろしそむねく代々の諸侯やあれをもと三人下代をつぐる
皆これ引て重宝なる者なれハ凡情ハ如此乃ものとか
こなさ民心安くして向へしやとしハ君子の心ねを
らハ故に先王ハ外に諸侯を立置給ひり秦の始皇ハ諸侯
大臣なくして万々歳まで子孫天下の主たらん為にとて天下に
諸侯一人もなくせしことを天下を一統せし年より二世胡
亥三年二世子嬰四十六日にして漢の高祖に降りし
及ほろびにける八十六年にそ秦亡秦の始皇ハ
多の大敵を亡し周の世代をうばひの文武勇之

器量(キリヤウ)の人なりしかども常に氣遣(キヅカヒ)なかりのなぐさみもなし
せしかバいくほどなく亡(ホロビ)ける高祖(カウソ)ハ領知(リヤウチ)とてハ一尺の
地(チ)も持ざれバ獨夫(ドクフ)の牢人(ラウニン)なりしを大秦の万〻[illegible]
討(?)しつゝ天下を亡(ホロボ)しつゝある祖の賢人君子の徳(トク)も
なりしかども外に諸侯(シヨコウ)を多(オホ)く立置(タテオキ)國に大[illegible]
へだてて四百年の天下を子孫に傳へける。むかし外藩(グハイハン)
なりき。著者ハ國(クニ)恒(ツネ)に亡(ホロ)び憂患(ユウクハン)ある者ハ生(イキ)安樂(アンラク)なる者ハ
死(シ)するの格言(カクゲン)なりしもなるほど大身(シン)なる者のこゝろ[illegible]
所とハ人(ニン)をも以道理(リウリ)にハなさざるなり。是が(アレガ)家(ケ)の主
下とならしめし南帝(ナンテイ)ハなぐさみまゝ間(アイダ)ハよく尽(ツクシ)てこそ家(イヘ)を
明(メイ)に盛大(セイメイ)にありし内(?)隣国(リンコク)なりしも亡物(ナミラウ)をも廢(ハイ)してより
政をもおこたりつゝ驕奢(キヤウシヤ)を生じ上一家(ケ)の中をほろぼされて天下

此権を失ひたりしも時の大樹老臣知ありたりけれ
南帝をハ馳走して成らしてこそ王なりとは北朝の公
家ゝ徳を惜ミ給ひ将軍家ハ政をまかせしして公家
も古風を不失足利家も孫根うくなりて権威
失ひ給ひしも時と南朝も亡し其氣遣なる
事多く万歳ならんと思ひ給ひしハ無量不知の故也
南帝も御和睦ありて帰洛し給ひてなげかしき
けれ給ふ亀ゝ事ハ眼前の事なるに何ぞまして
し只苦々敷ぞなりけり也
一心変問答子曰性無善無不善と又先儒曰無善無
悪心乃体とし二つハ云ふ、かゝる事さりとし孟子ハ性
善なりといへるもの本体ハ無悪無善と也只内ハ性の善と

もとひとつなる三徳の異なる所は性善の無声無臭より叶ふ者の徳の源也　云告子が性無善無不善と云は主意は非なり生これを性といふ所に同し氣の靈覺と見て理の靈明と不知故なり　無善無悪心之体とは違ふは又告子が旨とは異なり心の体は虚靈不昧なるものなれは悪ありてつくべからず善といふものも亦なし也とし性は本善なり性の感通もて移る凡は習善ありて悪なし悪といふものは人欲の私よりおこるて性の感通にまじはりいさゝかの障となるものなり性のまゝありて人欲の害もなきものなれは生まれながら善也孟子の性善といへる所なり孟子は性の本体を善といふ而わたしとのへるは無声無臭の体なり本体なり公

無為寂然不動にして感して天下の故に通する術を
尽すを智者たりとも術の智者にして無為の道理をよ
て性善の理を知へし
一心友問孟子曰為政不難不得罪於巨室巨室之所慕
一国慕之といへり古今国天下共に五代も武家にして君をな
いかしろにして権威をとりて或は主を奪なとしたる者を
大家たりとも君たる人知なく勇なく外より代られたら
かもなる時は大臣の心まゝ叶へし それにてなかる
あらし然る時は主に天下を失ふる也 君に知勇ありても
君の徳を損し今の大家に身横するにまかせぬもの也 大
家は又われましきなしひとし大臣法にて悦服を合へきや
云徳と行ひをもつて力と才覚と人を用ひ合さる所なし 古

今不徳の君大臣の威勢をあらそひ力を用て滅
ふる経とあらそひしも小知の小臣言を残すしる無わり
君小臣と心を一にせざる故に愛する所の政大臣の安危なるを
さぐることかなはれば天より滅して西まで生ずるのこころなれ
昔より代役人は悩ぎくをいひて川入新しき役人これなれ
昔これ古小人吏なれバかねを出て召さる中ふ人のうへ紙
文様を書きて上ム人下は筋目を任の体に拘と
とおふもの名れバ回しなかきみて世に家のなきを
事をうゆるとも理をなす事みをとらるの範に出て
の子孫守らはまつるのなかるある人と威勢をさ
悩く口舌かし今お頭をいたしきそれを縛
アとをなし部でを挿し人をわれバ事はなくして血脈

せいたうとのかはりましてかたくさる事のおよびなし
をしらぬゆへ人ひとりとてもかろしき君は大力
量達才わろく下知たしかならぬ主君ならば大家一
倍輩なれはおそれず事のさとりわろきはめて成君は
あくりふしをわるへしされど君一人して主なるをたな
つよみも成がたく下知はなりがたきものなれどもかなはぬ
まことのわか敵出来あるのみならず一家に敵従党おほくし
ひよわたる君ともしらずそのかた小臣よりかくのごとし
陪臣や大臣はいふよわかりとさためかるゝ国のおやうさま事は大
家の威をとられおなじき主君をかろしめ下知しつふをかく
るゝのみならずそのかはりをうしなひ今の権威をとられしをゆへ大
臣なれとも一儀は威をおとし恥辱をかうむるへく君

さる人ミつから徳をあきらかにし行を慎て大臣の恥恐る
所にふし君の威をうるへからハ大なるあやまちありなり
ろくを受しうしと君ともあらハかれ必仁愛ふくみ教
みちびきて是非利害をあきらかに行ひ我方ら欲を捐
し徳を其極ふし終に巨室必ゝ服し向ひなか
らなようハぬふる士民もしく久しく至る八未る
大家みれハ君の徳をおもうて同徳まて助かりの臣まて滞
然くして勉せて事あるべし　同君の教ふをささる
さる悪人ある八　云さりその悪人ハ国人ともに常
にうしみそしりそのまれハ必上をすてゝ可からさる上君
のかなしく仁愛をとらふさとのすら臣士民ふ
むしてし憂るふ不足　同君ハ禄を與ふる士民服し

かゝる大家ハ様もあらへさるに士民ともにさふハ仁なるや
君ハ遠くして尊し故に親しからぬ物事しかられて遜
し易し大臣ハ尊けれとも下に近しかのうちとられ易
し故に恐れさてかふろのなたまつるかつまさて君臣なりさ
臣ハ親しからぬ交も有て賞罰ともに大臣の取加しにて安正
あり故に諂人へ信をえて服さらさるのなかにの故に忠臣賢なれ
ハ出天下の治まる事もやうし古乃聖主と云ハ賢臣
をゑらくわまのて仍て命し天下
一 心友問 冉求季氏の家臣として民より取る事を厚くし
多しといへとも孔門の高弟なれバ後世乃てふく不仁而して
せめらるゝ事ハなきをゆるしとふされハ何ぞ孔子の其罪を責
てあらたむハ此責ハよくの法てら我等ことき乃浅学不徳乃者

さればこそ政ハつゝましき事なると知れくて侍り　云と達
不廉(レン)なれば悖(ヨウ)世(セイ)の様に民をむさぼりてとらさるを政の由なれ
わが心を專らはしめかくなれば政もわかしく民ハゆるく
「らして拙(セツチ)識ハ多(タ)欲(ヨク)するなれば民も悖(ヨウ)ひ跖(ザ)盗(トウ)も満(ミツ)る
を御専なれば　問志ろふハ孔子ゆるとそ甚(ハナハダ)しく也めぐ
や多くるゝそもし民の為(タメ)によくてと政事を世しつゝかも
れ侍り　云不廉(フレン)なる尤(モツトモ)凡(ボン)夫(ブ)ハ才知(サイチ)かしこく宿生
欲(ヨク)あるく言(コト)のくさも政わがこちも上部へ前月(スキナ)とさつて彼肯
賊(サイ)眉(ヨウ)乃ろを出るをいとなさくハ多く誰(タガ)何ゆゑ欲なるハ費(ツイヤ)
てまろうこぼのとさ　古ハ農兵(ヘイ)なりとも教によろしくかゝわらなく
も十かしそ二十とうさわり民の得分(トクブン)ハ八の中(ウチ)にとむハ中々そ
はゆえてしすまし政へし仕置(シヲキ)とよく世にあるむきこふをく一

ども人まし二と民はまづしく、おかにも主人満足し民
なれば上下の為にはならざれども孔子の責給ふ主意ハ季氏
は小志わろく仁政を疎じ、とにかくに財を貴ぶ事を上
下にわたりて仁政の助とすべき元たる季氏ハ仁義を不
専らに利とのみこゝろざし、あつめて富をいよいよ甚利を
と聚け奢を長ずるハ僻なりとて上恩を後にすることを
理あり冉求裁判の間ハよく面倒し奉行あたりなれバ之
まじめならずハ、是をふくむ下のはゞかりなしよ天もむしかへし
言う、八民の口を初より倍すべし、これ恩を乃ことならず者也
ハ人の恩をこのさぞ召をのなかるしおそれよ孔子深く歎き給ふ也
一心変同孔子泰山に登て魯国を小なりとし給ひ
泰山に天下を小なりとせしハ、天に居して益高き也

ハ天下を見んとも益小さからん見ところ既に大なる所ハ大き
小さからんその觀に不足しと思ひ学術のうへにてもかくなれば
る狭しかりつべく云る博ハせまく見る所小からんなからる
博く見る者ハ必らず胸中ひろし道の廣大なるをしりて理の至窮
なることを知らぬ人ハ自らそこなひとおもふ一寸の見の同じ事ハ二つ動
之事しりしより國家天下にいたるまで益せさる所なくして
氣の毒なるも笑止とおもひて居りそれハ上安く下
ゆへなりつ其その上をと子がひしと遊歩を非として化しらし
しなり丘將に對るれハ小將に生れそこなひてかしこく見所
うちハ大將中のさるくさまくし武所にして是を
京江戸へおしいで目出度中の者へと思ひて大將城
きへし大明代に二代の治亂と云事を日本

忘るゝとして陰陽の神とおどろく〳〵ハ普天率土の濱
と助て東夷南蛮西戎北狄の一方百年の治乱のうち
ひとつとしても虚ニ帰せバ十二万九千六百歳と一算かゝして
天地の寿ことぶきとしかしせん何そ日本此ハ国よ生れてといへ
ハ五十年の命数の君ハ見る所と短の憂もやすかれと
理よ人ハたゞ一衛の仁感して惻隠の情発らバ不
聴已挽れとも志ある人ハ非力畢竟其人の後を
知るらく没なれ事ともハ務と不忘の孔をおもふ
孟子云古之賢王好善而忘勢古之賢士何独不然楽
其道而忘人之勢故王公不致敬尽礼則不得亟見之見
且猶不得亟而況得而臣之乎とハかの聖王賢君を経
とそうしハ道を楽しむの故ふとものゝ冨貴を何物ともし

然るに君たるの富貴(フウキ)ハひろく禄(レウ)とする教(ヲシヘ)を施すにハ
重賞(キヤウホウ)なるをはらしても善人を好(ヨミシ)し賞して以て爵(アシヤク)
ては位をもつて忠(ヌ)をなしてれを重(ヲモ)くす故にハ世俗(コウセイ)に云る乃(タツトム)
なるもの無用の奇物(キドク)なる事の様なるとも根(コン)本天
下の達尊(タツソン)三つあり中にも徳ハ天爵(シャク)なり位ハ人爵(ジンシャク)なり古ハ
天爵(シャク)をもつる人ハ人爵(シャク)をもおのつから具れハ徳ハ位のなかに
て二つなからを老(ライ)を尊(タット)ひ養(ヤシナ)ふても天爵(シャク)の人爵(シャク)なるにおなし賢
君ありて位(クラヰ)ありてもまたこれを三達尊(タツソン)として当時の世にもあれハ
位の上二つもしかし賢(ケン)王下に位ある賢(ケン)者を見ぬ時ハ以て
位威勢(イセイ)ならす忘(ワス)れて礼を重(ヲモ)くし志を施ふて必然(ヒツゼン)の理(ワリ)
の君王の位をそなえて民間(ミンカン)に知られて志われ位の人を以
なるといへとも同し天爵(シャク)のある人賤(イヤシ)きる中小居(イ)なるを

おもふに此ハなから賢達なる古の民間に居て人の難
と忘るゝ事なれハ天を楽しみ命を知るゆへなり畎畝の中にも
居ながら堯舜の道を楽しみ其位に素して行ひなるの
外を不願なり一治一乱ハ気化の盛衰なり人事の得
失なりとも反覆ハ理の常なり富貴貧賤の上を
下へうつりかはるハ寒暑の往来するがごとし賢士こ
れを知る故に何れの地にもかくし居て王公を敬ひとゝし礼義
尽されバ切に思ひて其言なれども不諂上より求め
めぐみもことに不顧いかんや我より上に求むるとせんや何
ぞ国天下の得失を気とせんや古人ハかくの如し向学わかる
者の天下国家を憂ふる人惻隠の心を発りて不羈の事
凡情に主となるなり其心と云つゝの性命の分を

不知天命の勢と不知是何ゆゑ古者の事を学ては今を
非とし、これを以て変ぜんことをとらば甚非なるその
愚と不知者いふべからし
一心友同天下国家の存亡長短治乱のかくる所重る
このゆゑなりや　其所以をはかるに是一とおもひはかりしこれ
しかし天下国家の興起し治平にして長久なる大
本一なり此本存する者は吉なり亡する時は凶
也君及び執権の大臣を賢を好み賢を親しむ時は君子
従まず小人野にありて君子進み小人退く故に国家
天下亡びんことを救ふことを得ずして三皇五帝三王の
代は興起し治平せし其周より下の末になれば礼楽
征伐は時によらずして、自らなすといへども君子は進みに

人退乃治根よといふハからりあしこれをましくさの
治平なら國天下をこひよかもかてるを見やうかり德
と不知人ハ君王大臣といふともこれうらの知と是つもと
して善言ともの事を隨分我が知勇力をもって王天下
とよくせんやくたりひて賢知乃者を近づけば實義乃士
有道の君子をと遠ざくる時ハ媚へつらふ者をよくいふ
てほかわくなるまゝいつくも知わるくしてふ意思をしね
其間よ出来天下乃根なくつまうハ人情そむじこねる
事と不知とて小乱逆小及てはかるとうくといふもしかく之
爰一つく孟子曰魯欲使樂正子爲政吾聞之喜而不
寐公孫丑曰樂正子强乎曰否有知慮乎曰否多聞識
乎曰否然則奚爲喜而不寐曰其爲人也好善好善

足乎曰好善優於天下而況魯國乎夫苟好善則四海之内皆将軽千里而来告之以善夫苟不好善則人将曰訑々予既已知之矣訑々之聲音顔色距人於千里之外士止於千里之外則讒諂面諛之人至矣与讒諂面諛之人居國欲治可得乎魯平公孟子の弟子楽正子をわけて政をなさしめんといふ聞きて孟子大に悦てもいねられぬとおほかりしをよれは士数多おほく民安く国治まらんとなり一段なると公孫丑ことに不審して云楽正子は強力にしてよく事をはかりしや小退屈せさる人か智慮ありて分別ありて事の裁判とよくときさ人か古今人情時変の来歴くはしくきこえて高なるの多き人か政とするか才は是等の備りてはなり叶ふへけれ

然共(サレトモ)才力ハ抜群(バツグン)すくれても政事(マツリゴト)わりの道をそれ故ふる
と樂正子ハ左程乃まはり者ゆゑハなれさと不審(フシン)
まとひて問なり孟子此答(コタヘ)て才(サイ)ハなしといへり公孫
丑さらハ政をおさめしむるくハ成ましきか何そ悦
て不審(イブカシ)やとおし返して問(ト)なり孟子云樂正子ハ
善(ゼン)を好(コノム)者也公孫丑善を好(コノム)むまてにて大なる國の治(ヲサメ)
ましき事ハかゝらぬ道しと、おもへハ世間(セケン)乃よき事を
きといふものおほく世に善業(ゼンゴウ)乃人なれハ其類(ルイ)と思(ヲモ)
おのつから天真(テンシン)異同(イドウ)乃しれますくなき事ハいへば
このまつらふ者あり如此(カクノ)乃人ハ政をなさハ却(カヘツ)て害(ガイ)多
あまのおりにても時宜(ジギ)不至は叶(カナ)ハされハ人情(ニンジヤウ)は
さとさしてらぬりと云も、あさゆかひとゆるものなる

楽正子乃善を好むと云ハ在積の事にはあらず凡情
ハ我慢なる故に我是と云ども人乃善なるを悦び好
にしてそねまして徳性をたつとく問学ふ乃功ふかく
真知明らかなれバ正邪をのづからくハしく事乃時所
位に叶と不叶と君の天まへ應も有殆よかるひろ
乃分別ハ微に美悪とうをさとてよくわきまへたるゆえ
ら生事ハ我ながらわれしく仁厚温和にして君を好ミ
人乃いさかひを嫌ふ小人踏次乃遠きを悦び前労をも
を乗て君を告しとも下乃情ハよく立人此わきまへて
皆らさからはかれハおもひよる人情みな悦び知りて政令それ
其可ふわかる故に天下乃人民政道よろしくわかりて君を
さてよいさいしたら天下の人ゝ善をもとるべき進内ハ悪をきらめ

つかしさからぬ天理人欲盡さるが故なれば善は好み悪は
是一回に用てもよろしまた天下に用ゆるといへどもよし
善は不好人の氣象ハ訑々として聲音顔色より
く賢人知者をも千里の外にぬぞかす諫を拒し意見
わる善人ハさらにまれて退きかくるゝ時は小人内をかて
いよく賢智と悪口しひしく媚諂の人のミ前
ほたなふそろひていさめかましきことをつゝくを
けるゝ事上方にぞよけつきて悪をそのいるいはれみて国乃亡
此開代するほそらふる讒乃治平の国ふは不念上する
人に剛悪否するとも従ほめふことなかり同志あるハ若と
好ふもなくあるをや　或わり孟子曰古之賢王好善而忘
勢古之賢士何獨不然楽其道而忘人之勢故王公

不致敬盡禮則不得亟見之見且猶不得亟而況得而臣之乎古の聖王賢君ハ賢知の人あれバ國のためにハ己か位も勢をも忘れてへりくたり玉ふ禮をつくし給ふ○さればいにしへ執政大臣たる人も權をこと／＼く是を好むのみならず德を尊ひ道を重んずる故なり善を好の至極なり王公の位をもちたまふ大臣權勢ある人ほこらず賢知ある人を尊ぶ時ハ義士皆野にかくれてあらはれす讒諂面諛の人ハ利を好むもの來る無禮をいましめよく衰代の惡をまぬかるるも賢士の道を樂て人の勢を忘れたる者なれバ王公といへとも敬をあつくし禮を重くせされバ其知力を盡さしむる事不能賢士不悦して知力を盡す時ハあるへしてもなき

むかしより世俗と好める者をわらひとして勢力を忘る貧

士を敬するものハいつとも友にすれとも益なかるへし

一学友問　君子の父母を祭礼をするハいかむ　云　君子ハ幽明人

鬼をしるゆへに死生一貫にして在せしかことく明々たる

然なりとの故に孝子乃みな親を死せりとせす祭祀

まハ何の然りかし　至誠を尽すもの之

一心友問　和書の類言多くきゝもちて語らは五三年手透か

ハ又きつゝ友とひ語りて章をへさり　云　孫子章今も半ハ

知ふみそよみぬれとも人ふまち遙ひとくへきてあれハも

つたを後世のそしりをハ服者のよんゆゑとして今の人の道の

とく〳〵きるすハ今日の天職なる晴文明の運に当て人

なの闇昧をとひらくハ勤し夫恩に報あるなり是と

汲てしのんでつれなき思ひだ

[illegible]

集義和書巻第十三

義論之六

一心友問仁の理ハ孔子といへども一言にて説尽し給ハざるにや門人の問に答玉ふ所皆かはれり　云仁ハ全徳也門人の問ハ小なり答玉ふハ其心の徳よりて徳に入の端をのべ玉へり子曰如有王者必世而後仁と是恩澤の洽く天下に行ハるゝを以て仁政とするの義也吾心太虚天地の間まをぬく不通としつあるハ未仁といひがたし　問云ただ天地万物乃理事を物とにて見紙とも人犯る　云さまあらず事を物の理を知といへども吾心事と物との上にまゐく好悪ある時ハ仁にあらず天下みなゆるく好悪することなく義と共にして無心なる所物に

仁なきなり醫書に手足のしびれたるを不仁といふなど
痲痺するといへる氣不通して人のさらにしらざるところ
あればなり富貴貧賤死生壽夭夷狄患難へをして自得
せずといふことなし天地の陰陽人生の順逆ことごとく吾に備
へり何の好悪をかあらんやよろづに好をねがひ悪て
さる心あれば一貫ならず義と流行せざれば是不仁なり
○問礼之用和為貴と此用は体用の用をいひ用ふるところ
の用とはいへり總じて此章は受用の心得なるべし云礼は
用は禮のみを本とす也禮をのみ行ふ時は必乱るゝ也
又和は知られざるなり夫礼は恭倹を主とす易簡にして
時に従ひ應ずる時は和ありてゆるひ易し天は易をもつて知なり
地は簡をもつて能なり天地上下礼に従ふ是は礼なり易簡の善を

和かりて易なる時ハ知易く簡なる時ハたやすくしたがひやすし知やすきや
すき時ハ親ミあり従ひやすき時ハ功あり功あれハ日月のかはる
くがごとく四時運行してやむ事なく天道の悠久にして無窮なる
ハ是礼楽のなかたち人事和に重すなれバ流やまずして礼をもつて
節とすべし礼節なけれバ和をもつて和せず礼節ある時ハ
嗅して又乱るなれバ礼楽ならびに其根をなして陰陽動静の理
あり先王の道天下の事大小となく是よりしてなすとか
し夫礼ハ上を安し下を治るの備なれバ古今人情時
変の異なるあり易ニ云黄帝堯舜垂衣裳而天下治通其
変使民不倦衣裳をたれて天下治るハ無事の至極なり
其変に通して人の退屈せざる礼法によらしめ両をいふ
とるなり換るにあらずして時と人情ともにつまびらかにしあるへ

されば則是和を貴しとするの義なり
此故に顔子仁を問へば孔子非禮視聴言動せざれと示給ふ
すべし道徳の学は悉をとゝのへさまたく非礼乃物など見聞
言行せざるをそれのみ修られ顔子の大賢にて是受用と書
是非を何ぞや　云其ハ纔ニ非礼あり常人ハ分上学者
分上乃非礼あり進て賢人大人分上の非礼あり聖人分上にて
全く非礼なし顔子亜聖人ハ不及こと一等なり故ニ聖人
ハ至る人を示給の頭ニて礼といふハ天理流行してしば
らくもやまざるところなり易云天行健君子以自彊不
息といへり天行健なるハ礼の体なり君子用てをつとめ
てやまざるハ非礼なき也心上ハいふに及ばずして視聴言動おのづ
きこゆるまじ須臾もしらずなるハ顔子分上乃非礼也

三月行はゆるさるといへとも四時とも三月行にてあるへし
三月といふハ年中の事也年中たゆへからされとも多くハ年を經
れはおこたる心ありてつゝしみうすし故に三月の字あり妄心にさ
らされは至誠乃妄息にあられす顔子ハ聖人に近し一向
化するときハ則聖なり此語を事とする所也 問聖人
なし戒慎ありや云あり 問云妄心といふ事あら
は 云戒慎則自然に出て時そうして戒慎せんといふとく
なし則妄心也いかなる心の時ハ時そうて須臾乃息かれ
とおくさる次妄心をおのて初て息すし自強ハ克己也不息
ハ復礼之用也自強不息ときハ天行健に合を吾心氣造
化と一也氣は天下吾仁関にあり春夏秋冬日月星辰寒
暑風雷雨露霜雪土地山澤河海ことく吾身ニあり

備ならさることなかりし是天下に仁に學するなり

一 凡國軍陣にも必と備あり兼て備そなへ付れは敵に逢て負なき事をすゝむ也世治國の備は何ゆへ備るや云
治國の備は政也政は孔子既にのたまへり足食足兵信之の三ヶ条なり食不足ときは士貪て民は盗をなす争訟やまれ
刑罰たへすとも上奢下諛て風俗いやし盗をおこすも彼か罪にあらす是を伐罰するはたとへは雪中に庭をかこひて粟をまきてあつまる鳥をあみをもてとるかことし教へすして殺す
ことは不仁也況や民を死地にかつてたゝしへあるをや上に立者用ひさる也下をむさほる下困窮すれは上をうらむ是
逆乱の端なり戦陣とするもして國亡ふる也兵を足すには備あり況や信の道をや　問食を足し道いかん

在上恭儉にあつく威嚴ある時ハ大夫士もおごりをしらざる故なれバ
されバ民も己が力によりて五穀を生じ工商ハ粟にかへて食を
年貢をとること甚すくなければ民遊楽をやめて耕作を
事につとむるものなり是多ければ飢寒憂て力たらん
おこらぬゆへさる時ハ五穀の生ずること限なし食ふ人
士民ゆたかなるに武備なれバ時ハ又乱にみだれず武芸をも
ならへる上手を招きあつめて常に弓馬をならハしむれバ其
筋骨強くつよくし間よりハ馬の生まるゝ様なし弓さら矢
師大工根うち鑓刀のかたちとれ屋具足屋鑓屋あらゆる類や
さや師塗師屋鞍鐙鞦切付屋とわしやものゝたぐひまでへて
武具の細工人を多く置て軍用に事かけざるやうにするゆゑ
兵を足とハいふ也士民たゞに無病にして氣血まさくやがける

政教をすとも第一也信之ハ天道ハ誠也真ハ誠と申心なるし生れ出る人あれバ其元来の誠を思ひて是に從ひゆたく偽なく厚き風俗となりて教うる処信せ中に仁義礼智乃性理かあらはれて人ともいへど耳目口鼻の備あるうゑしし民といふハすべて従ひし者の総名也つかへざるなれ士工商なるその中にあり庶人ハ本阿ふみ陶して庶人を教へ給ふ人をいふ如きの政ハ天下国家の政道乃ことなれバ礼法の事抔乃のみ重ずるときハされバ信と乃そのまひて礼儀法度ハ及ばしとなれバ也徳の程をうしなふ事なくして礼法をけさるの也ぬきんでてもれたる湯したるかしこきの激識不違とへハ聖人乃礼儀法度全く備ることも何の益かあらん五典十義ハ誠の條理也風厚く事まくあるなる時ま

五倫よく相親む如此して乃ちなくあるに礼楽をいくよ七絃
の事ハ素よれくもより礼ハ後なれはなるわ也天下国家飲食衣
服備りて足て武具ゆたく武藝達者にして誠の道明かにして
すゝひなく君臣相和し父子相親み夫婦別ありて兄弟序
あり朋友相ゆづりて争語なくハ乱を顧みるもなくなりて
問信ハ、なき遊第一よ乃絃ハなきして第三よのあふハ何ぞや
夫政と政の次第也人生れく飲食よあらされハ長を
なすてあるまし衰幼よ乃絃つり兵具よ限らされど
禽獣人ふ交りて強弱相凌て静ならん然を上にし愚を
下ミするの備なり政よ次よ乃あふ赤子母の胎内を出て、
一聲なれハしるに雨よ則天具存よ父母乃赤子を養育
する事をわすられぬとそ遠からぬ事の儀なりけり信也

は笑詐を人欲の為なりとあながちに伝るのを教ふ絶よわれのみ益よ
此三の大事をのぞくに至ては不得已してやむる時は兵を去
るべし信ありて衆和する時は教をよくして堅甲利兵に勝べ
き理なり又不得已して二の大事を去ならば時は食を絶てう
へて死るとも天下の人一時に死して天地廃ることも可や
信なくば禽獣と成て生ては義路に敵す順行て義ならざる
き所の政は食兵を先とし次恒の産なくして恒の心ある
ものは良く路に逢ひ又誠なき事の備なり又逆行て義を
害ある時は識のことわりを持人の命あるもの始て順貴
なり食によりて成長し兵は殺しく生は全く天下を
警固を信の道をすてて人の是義を行に其は老衰に及ては
力つきて兵もち食喰もならずして死を不定とのは滅して

為王者にあらすハ此同とまうらなるを画ゆゑ孔子
みなわら次ハ此答あるし天下の政道治乱得失たゞ此三代
大事乃存亡ゑよれりとをかけくハ国其ゑ一のらず天下
其ハ天下よおちんと易簡よしてハ白也　同後世豊年わりて
食足とミハ士困窮し凶年ニ行て食不足にハ民饑上
下ハかくのごとく苦て位つめに乱世と成ものあるハ何ぞや
然此ものハ至て来る所餘多ありといへとも其大なる三を
一つにハ大都小都ともに河海乃通路よ便地あり都するゆへ
驕奢日〻ゑ長してあまりきはめて商人富て士貧し
くなるものあり二つにハ粟ハいふに及ばず諸物みなかうなる事次第
ふえゆくへなりてより金銀銭を用ふとし専なる時ハ諸色次
第に高直に成て天下の金銀商人の手にわたりて大身小

身を不用不足とするものなり三にハ當然の式なれバ時ハ事
なけく物多くかる事の也士ハ禄米を金銀銭にかへて諸物
と云米粟下直にて諸物高直なる時ハ用足れども上より
事なけく物多くれハゆきとく貧乏困窮をし士困すれハ民
みな天子の如く倍して豊年にも不足し凶年にも飢寒に及
ぶ士民困窮する時ハ工商の者粟にかふる価を失ふ
たゞ商のミましく富を得なれり是財用の權商人の
手にあれハなり是国君世主ハかりそめにも富貴を人に
なんぞなられ冨貴を合ふバなんとなれバ權を先じて國亡び天下
乱るる時ハ商の富ハ身のわざハひなり虎ハ皮ゆゑに文ある故に田獵
の災ありこゝにて商ハ金銀多きゆゑに盗賊の奴となり或ハ命
を失ふ草木の情なき不時ありて落葉枯槁するを見れ

盛衰ハ物の自然也況や己か利を専にし衆の苦ミハ係るとも其
何ぞ久しからんや

一 或問孔子曰其身正不令而行其身不正雖令不従又季康
子ハ政を問ふに對て云政ハ正也子帥ゆるに正をもつてせバ孰か正しからざらん
正しからざらんと又盗多く子の不欲ならバ是を賞すとも
ぬすまじとあるかなみ後世ハ上正しからねバ下正しからず
さるものあり上不欲なれども士ハ欲ありて下ミハ盗をするも
のもやすきなる者あるハ何ぞや　云使善ハ政とれなみ不足ニ
ハかるの也悪なるにもあれ君の身に權威ある時ハ下ミなよりて
善なれども君に權柄威嚴なき時ハ下さかへがてし後世君
たる人其身正しく不欲なれども威なく紀ハ柔善なる
あるべきなりて政をするの道をしらずその故に正しく不欲

するハ善なれとも其化士にうつらず其澤民に及ばざれバ是
氣質の美にして道徳よりおこるものならざれバ也道徳
に得るところのハ善にして威も又善なるほどこれの道といへり
故に其ハ徳儀士大夫にうつり其ハ徳化民庶に及ぶものなり
ゆへに孔子曰君子の徳ハ風也小人の徳ハ草也草に風ハ識
しくおふ時ハ偃と也故に君子の治世ハ殺を不用君威
なけれとも殺をもちへるもさゞれバ世をさまるもの也
上君に威なり化すのハ必下ハ威ありて上の威をうやまふ
者ハ君不善なれバ不善なれども威あるゆへにおそるゝもの也
一朋友問我甚不才なりかくてハ学問成がたかるべきや学問し
ても何事その用にも立ざるや学によりて才知出る
ふ道理あるハなきに学ひされとなり　云よく学ぶ者ハ己に

あくつる才知ハ、かえつてかしこきにあらず何を学問によりて
才知ハ出せんや学ハ己が明徳をあきらかにせんとするものなり、
徳をうしなふ者ハ多し徳の助けとなる者ハ稀也学ハ真
の道のしみを求むべき才知ハ己が心をまよはしめ己が
身をもちふしたがふ学ハ齊家治国平天下の道也才知ハ
家をやぶり国をさはがし天下をみだす古人云つ
きうたハ吉也むくをするハ凶なり拙ハ徳なり巧ハ賊也
と承すれバ拙ハ徳に近し自然の幸也才知をもつて巧
なるハ備りをしのハ不祥なり吾子天然の吉を得ざる
変して凶となる也さりとて才知ハ用ゆべからずといふにハあらず学ハ才
く乃てぞ智の達ひを解して自ら此世人皆天死を
はげむて、いかなる才知なく頭あんとも不才ハ命ながく才ハ命み

ど世人みな労といひて安を願へり身ハ労(ラウ)し而すを体をす才知ある者ハ己か身の上をゆすり行くのミする人の為をもあつまり深山(シン)乃木も材あるハ斧(フ)斤(キン)の憂あり不材(ザイ)乃木ハ斧(フ)斤(キン)の禍(クワイ)なくして其天性を全うし民にほさハ其農(ノウ)事をおさめて他乃累(ワツラヒ)なし才ある者ハ衣食とうり肝(キモ)煎(イリ)と成て人の為まつかはるゝ武士ハあつく拙(ツタナ)き者ハ武道のほとしるミ武よくして国の干城と成乃ミ無事の時ハ文武学てこゝろひかされ乃しみだりに士と成て他の労なく累なし才知ある者ハ役(ヤク)儀(キ)を命せられて一生いそがはし武士なれとも武業ならふもむつかしとしいはんや文徳をわきまへんや一生安気よくして老(ラウ)衰(スイ)に及悔(クイ)益なし 問如此乃道学天下にひろまれハわからぬ人多

不才ならのしかれとりしハ天下国家誰か是を治めんや

云才知かくまて人民拙き所ハ悪なし不治乎悪の

源ハ才知なきなれ至治の世何ぞ才知を用むや

問堯舜文武の代五人九人の才臣なる孔子も才かたしと

のたまへり才を用るなりあらずや　云むかし天下才

知を亡して悪の源を絶乃才臣也今此才と云ものハ

乃たず今此才ハ堯舜よありて用る所なし大才ハ刀乃ごと

じまくるとをつくやなし晝夜身をおこすとい

へども一生用ひも威をとりて悪事也小才ハ刀を朝夕

用るがごとし人ハ才をこらし身をうしなひて悪事なすなる

ハ伸なし今乃才ハ小才也朝夕家にて国家にこまるなる

らず終に國をなぐさ天下乱る驥ハ其力を称せんして

其德を稱す力もて驥ハ才也世ニ驥の力ある馬ありと
いへども驥の德なけれバたゞ平馬よりもおとれり驥ハ力
何ほどまさるといへども繫れて幼童にもあつかハ
るあり善馬の名あり以て人もすぐれて德なけれバ妖物
なり不才の德に近きハ中々まさるなるべし　問今ノ家
領なく田地なく金銀なき者ハつゝすぎを不用ハ何
として父母妻子を養育しぬらんや　云これハ寒暑
甚寒くしも壊菜をわきまへざる者のごとし　貧きがく
めハ仕を求めて己の天性によりて一役つとむるも過分の
ミ其職事それぞれに可なり
一心友程子敬の心法を問　答曰言論の及ぶ所にあらず
書よりうつり言ふよりて敬する者ハ多くハ敬といふ文字 [illegible]

中ゟ如さかりて心の本然を失へり古人乃心と我心ゝ心と
相通して自然よ得あくありき力能用る丸功ありて我敬乃心
法をうるとも吾子にかくらん子乃心の一物とありしに能恐
る所謂中者天下之大本也喜怒哀樂未発之時此性渾
然在中心有撒遷則失其所以為主也説場くよし
無物乃敬を知色し　問事之物之丸上ゟ天然丸中ゝ也
とりふもの八何ぞや　云器物其則を得たるを中なり
飲食其味を得たるを中也中ハ天下乃大本也といふ事
充塞してあらんといふころなし其体を中といひ
其用を和といふ人の不動をたとひ動を行ゆとふ
かあらし同しく人乃人也百尺の木根本より枝葉よ
至まそて生意一貫也根丸土中にありて能大本なるし枝葉

を達道とし土中にある生意純中にして枝葉にいたる
の生意を和といふ是れいはゆる盡せりとせんは其本は其末に
ゆくのこのを中として時に發するこの純和といふべき也
土根枝葉ハ生意盛にてあるし唯中ハ見色しく和純
そ春花秋紅の節に當てうへなるを　問中と仁と
いへん　云中純いつぞ仁其中にあり仁をいつて中其中
に有古の聖王を民の君師といへり君たる和たる民
ぞ為るし師たる和にてよろしん是ハ親しむ一人の聖主
なるがあるし　問仁と愛といへん　云仁ハ生理也愛ハ
生氣也仁ハ性なり愛ハ情也たとへバ木の根本にあるハ
枝葉にゆく流通する生意ハ氣也春花夏緑秋紅の時
畢のあるはこへ情也みなか生氣の變化なり其ハ變化

是す汝か名の理ハ仁也唯人ハ此仁を得て明徳となす也
其眼かふする所ハ己か有也万物ハ明徳らけまへ己が物とす
ゑしわさにハ仁中外造化せらるゝ乃ミ
心友問先儒ハ有周子無極にして太極といへるハ非也聖人
の言ニ無極の語なし此無の字老佛よりまも来と競
面白候ハ云およし文字になかり易ニ太極ありと
是聖語に何ろとや易ハ爰易して其ハ何りなしと云
まるなりれハ無極にあらすや周子初く無極の字敷ハ云
せいでも無極を易乃字の意なり初ていふにはしれ
夫無の字何ぞ老佛より出しや老佛ハ李老聖学
ぬ所もある上天の載ハ無聲無臭といへり佛語ハ本梵
字にして日本のハいろはの言葉のごとし みな中國の字

一書をかつくいて中国の字異学よりも出でき候よし
心友問先生ハ先師中江氏乃言紙用ひましくして自乃を
をたかく経ふる高慢也やと申者あり云事ハ先師乃
愛でたゝはよろこぶのハ實義也学術言行の未熟なるを
時不經よ應ずるも日をかさね漸く熟し時よ當く
變通無し色し事の後乃人と又事の学の未熟を補ひ
事の言行の後君時よ不叶をハならしむ色し大道
の實義よをしくハ先師ハ事と一毛もたがふ事なる
し後事乃後乃人と亦同し其變ヲ通じて民人ら
むことなれハ知を純し言行の外の不同を見て同異
我争悔ハ道を知ざるなり　問何をか大道の實義と
云　五典十義是なり一事にも不義を行ひ一人にも罪

がるゝ者弑殺して天下弑得事もならざれバ實義なり
不義をにくミ悪をすつれバ明徳弑固なくすれバ也此
明徳を養て日ゝにあらたにし人欲の為に害せられざ
るを心法とす是又心法乃實義也先師と云ふべからざ
ばのことわり唐日本といへども先ハたとへバ此實義を誤
そのゆへハ其云所これ先師乃言にしたがひ守ることを先師の門人
ならはし弟子の役の人ハ弟子の言を非とし不用ことなし是實義
あらん人ハ弟子の同志也先師本よりあまれ情を愛せんに疑れ
志をとゞろえたり来熟の言を用く先師を贔屓するものと疑ふ
の凡心ならぬを先師存生の時愛せざるものハ志ありなき学
術ハ日ゝ月ゝに進て一和に固滞せざり其長を善と悪としるの志
相継く日ゝに新にするの徳業を受くる人あらバ真実の門人成へ

古より民三に生ス父母生し君養ひ師教ゆといへり
恩を報じ施すよてといへり三年の喪服問ひ弟子の光
師よをけるも其恩君父は同しく子よく父の家を起し
臣よく君の徳を知る先門人よく師乃学を新たむる
ことしみ恩を報もるなり
心交尚春夏秋冬ハかはらす日月星辰同し人の形異なれ
あともし仁義禮知の性備わりたるなり古昔ハ道徳
の人多くして今すくなきことを何ぞや 云孔子曰古之学者
為己今之学者為人とは今の世ハ道徳乃人すくなき所也
古之士者利人今之士者利己とのまつたく先ハ古へ学ぶ人の
為に人を利せんと今ハ我ハ先ス己を利せんとおもふ士君子多くハ
其徳を失ひて小人となれり

一心の問　仁者ハ不憂知者ハ不惑勇者ハ不懼とある時ハ三人の
様ニ聞へ侍り君子の道三とあれど三ならねバこそ君子と
云義ハ仁者知者勇者いつをも君子との義ハ　云君子
の不憂ハ仁也不惑ハ知也不懼ハ勇也此三ツある時ハこそ也
ありハ君子の道廣大也といへとも心の徳ニ本ツく時ハ此三ツ
すべて一ツ也と云義也己を成ハ仁也物を成ハ知也性乃徳也外
内を合する乃道也故ニ三本一也一人の人あり子よりハ父
父也臣よりハ君也婦よりハ夫と名付るかごとし
し仁知勇同しく性の徳なれバ君子乃天地幽明順
逆死生禍福ともに一ツにて己ニ得ると云ことな
けれバ憂ふるところなりよつて仁者と名付君子の
陰陽人愚富貴貧賤夷狄患難ニ入らして自得せざると

まことなく心みてよはりきかん事流水のごとく云事能行て
ゆうなる所につきざくハ知者と名付君子ハ浩然乃氣天地
にみちさかハ剛強盛大にして万物の上にのびやふ物
欲にたて便さも淫ず威武に屈せられず悪鬼妖物猛獣
をもおそるゝことなきさる所につきてハ勇者と名付たる
かれ常人の憂ふる所をも不憂よりて君子能知をと
をもおそれ色し凡夫のおそるゝにおそれハざるによりて
君子を知ともいとも危し世人のおそるゝ所ハ能をそれ
ざるなによりて君子を知とも云一時によりて三人
とならく見らことも害あらし又仁行して知勇能ク具を
知行して仁勇能行ハ勇ありて仁知を好ぞなかなか
者あり是を氣質に得たるもの好む氣質に拘る

仁者ハ好く人を愛し或ハ其身温柔寛裕なるゆゑなるが
ゆゑ也不憂といふハ及ばぬ事のみ不憂を知るゆゑに勇
なるハ中々さかしきわざにてもあらじ也氣質に得たる知者ハ俗に
いはゆる分別者也然れども万物一体の仁あれば物と成て功
なし人間世の名利得失の分別のみかしこくて幽明死
生の理を知れども山の氣のあまれるをさとく所をさとし不惑といふ也
すなはち氣質にゆゑある勇者ハ所をもてるゆゑにへしそれ
なる也山に行て虎狼をさけざるハ猟者の勇也海に入て
蛟龍を恐れざるハ海士の勇也戦陣にのぞんでも矢をい
とはざるハ武士の勇也大森彦七などの武勇者もそこ
猟に逢てハ氣を失ふと也されバ其上海に入てハ
海士に及ばず山に入てハ猟者に不及大勇の名誉なる

武士と云ども不懼といふべき物によりて恐る物よ
りいそぎてわざるは知ならずして仁一体なりして物にて
二よかなる所也道学に得る者はさはらぬ勇者は仁知を
かねて也不懼ことなく知者は仁勇能かねてさて不惑
なく仁者は知勇能かねて憂ることなし君子の道
三あるとは是なり一とはなきしくは君子といひかたかるべし　問
我よくすることなしとは孔子時は孔子さへ道をはかざる
のみならず後世の人いかでか及び給らん　云今
も人あり我よくは以もらるとも我同志也つと先ざるか時
も我よく法とのを得ぬとも以て人をすゝむ我よくするか
事は皆志ありてのみ我もしむかしいふ義はいかれして
さあとわれ

一 明友問心学ニハ碁(ゴ)象(ヂヤウ)戯(ギ)の遊びをも禁(キン)制(セイ)也と申なり

けるとなり　云心学乃事ハ知を惣して道(ダウ)徳(トク)仁義に

志ざす者ハ人欲を禁制する理ふて何事も全く格(カク)し

尽さんとおもへバ何れいと面白くち末の碁象戯を禁じ

給ハん道学六藝(ゲイ)の事とまふ人ハ日夜愛して　なら

ふとせり碁象戯をするともせし文藝武藝

を心がけを達する日夜送る人ハ碁象戯の遊びをもせ

ざるなりへまされり禁ずるに及ばんや双六(スゴロク)なとハ博(バク)

奕(エキ)の下地(シタヂ)とも成なむ博奕ハ悪事の根ざしなれバ

在様乃ものごしをバ戒ても可也本立ごとハ末乃は流

らぬとハ禁(キン)せさせるともその道をのりやむものなり本を

立して末を禁ずるハ禁せさるにも劣れること也

一心友問曾子曰孟莊子之孝也其不改父之臣與父之
政是難能也と莊子か父獻子賢徳ありてよく人を撰
用ひし故よ其政よし不改ともあり何そおもき哉
こするや　云父の獻子賢よしく子の莊子知あり
又孝心厚し故に是ほとよく世の古今父子にえらるる者
其子の代に何けくるとも二あり一ツは其者よけまことも
子の方すきの者權をとり立身せんを欲しそ父よ
えられし者をも年てあしさまにいひかけよりもをとも
つり其上父子好悪別也故よ父の臣を用ひまじ父の政をも
改る者あり是は子不明にして孝心う淺きゆへ也二
ツは父にえられし者私欲多くよからぬ事を好みし見へ
置て是を不用又父の政可よあらざるを見けて

改しむるにあたりてハ子細ありて不孝にもいひなすへし
又の如く心ハ善人を用ひ善改(ヨキニツリコト)行ふなく欲をはなるゝ
より反する者ハ人欲をも行ひ害あれども親の本
心にたちかへりて悪を改め善にうつり國家の長久を
なして親の先祖に不孝の罪をまぬかれしむるハ
大孝也親の好(カウ)悪(アク)ハ一身の私也國家ハ代々の守なり
夫ハ善行て知不足なる者あり知ありて行不足なる
者あり善人行ども知不足なる者ハ平生のふるま
ひハ行跡正しといへども肝(カン)要(ヨウ)のところにいたりてあやまち有り
且ハよき事をなすにハあしくするものなり行不足
なれども知(チ)恵(エ)ある者ハ平生の行ハそろハすとも
七八まてハ礼儀にあるべしといへども肝(カン)要(ヨウ)なところあり

わする所よ其よりて知ぬ事をも消失て人情時勢よ叶ふもの
あり父善人行ても理かれありといへとも知不足なれバ
人を用るにはあやまられ政時所作よ不叶子不賢なる
もいふとも知ありて人の善悪を見あやまり政時所作よ
叶ふべし外より見る時ハ父よく子よからざるもことも内よ
りとめる時ハ父乃代よりハ國家ことのほからず子乃代よまさ
よく治る者也父不賢なれども知ありてよく人を用ひ
政時所作よ叶ふものあり子善人なれども知なけれバ
終ふハ不明乃所よ至讒言入て子乃代よ其功とげもと
此二の者ハ自然乃勢也父よえらバれし者よもよりから
ぬ者ともまつ色をもきる外又國よ舊功乃奉行佞人
あまた残子乃代よなりてハ其賞なれなきなくして何乃功

徳となき人を方すみやかに位禄をは分に過たる者
多し父子相継の礼にあらすむのに孟荘子か如く
紀孝なくなし

一心友問伊尹は聖の任なる人也孔子は聖の時なる人なり
とありては孔子を任なる人と時に当ては任し給ひし
列聖の中何の任に当るにや　云湯武是也天下乃治
乱万人の安否をいて己か任とせは取に徳に恥るの悪名を
かへりみす實は天下を欲するにあらんは巣許か清わん
任重にはよりて進て辞せは桀を流放せり若桀猶
に志ありて湯王の教をうけし道を行て必をむせて
天下をかへし授く紂君悔る心ありて武王に
降り先悪は改て善にうつらは咎を助て仁政を行ま

あらむ但し武王まて紂をそしへて流放し亟むとれかし
あるへき紂剛悪勇心ありて自害せり其後紂王の子
をたてて大国紂興へ商の祭をつかさしめ後ふたゝびそむく之
し後世数乃子孫といへどもこれをはつ求て殺とは云悪なり
太甲無道なりしかば伊尹是を放ちしに先き紀これ
まて伊尹は幸なく太甲先非を悔て伊尹の教を
まもりしかは後へむかへて位をかへしける君臣改めなから
んは伊尹天下をたもつ心ありしかは位を纂ひとられ若
あらんや位をとる故に辞せず同ありは天下の民の
水火の中にあるをしむるくあるとは聖賢皆あに
生てのかに色しいつもとは任さへ紀とすからむや 天
任ぜむ則は任せさる天任せしめさる則は任するへし私

心ありしの所よ孔孟ハ道を任して天下経綸せんと
孟乃時諸侯の強大なる者ハ孔孟を恥しめ
天下統一せんと若孔孟乃才ある人功名のすゝめあり
ありて時乃諸侯を御すれバ天下統一せしめん
ことかなふの内にありし又ゆるしぬ仁を好く義
をしらざる異学をもつてせざるゆゑ天下をおさめく
人民を安せんとおもへども聖賢ハ道をまげて天下
を安ずることハせず兵をやめ食をゆるく天下の人饑
死せしむとも信のみ存せんとの心なれバ
心友同天下有道則庶人不議といつはり法ありて天下
国家政道の善悪をいはしめざる事中になをおほく
辨者をして敵の美を談ぜしめ先ざれどもいつわり

同し事ならんや云其口が鉗て私議せしめさる事あらバ自然の勢がいつも也天下有道則庶人不議と云ハ天子より天下の富貴をもて人にわかす國君ハ一國の富貴を有て人にわかちきをと大臣ハ君が助く私の權勢なし農ハ耕し工ハ其職をよくし商もて有無を通して其利をするのミ天下國郡の財用ハ自然の勢ありて商となる次何そ國天下の政令が議することをせん天下道なけれバ時ハ國君世主の驕奢なる事有道の時よ十百倍をといへとも富貴の權ハ下よりうつるもの也故に商人國天下の財用の本末を心に取得て國天下の利をあやつし山澤の淺深河海の運行がよくしるところの内なれバ商ハ月々に天下の事に委しく士ハ日々に万事にうとく

なりぬれバ庶人の私議するのミにあらん財(サイ)用(ヨウ)の權(ケン)商閒
の手にありて心のまゝに成ものなり故に商日に〳〵富
て士日に〳〵貧し士の貧(ヒン)乏(ボク)きハまる時ハ民にひとしく法
なし士民ともに困(コン)窮(キウ)まる時ハ天下の工商利を失て
衣(イ)食(シヨク)を得べき便なしよつて紀者ハこれらに冨商の數
十人のうち也あるを以四海困窮すと云堯(イウ)曰四海困(コン)窮(キウ)
天祿(ロク)永(ヨ)終(コン)と君の祿(ロク)福(フク)とをくたへて天下亡ふると
也此時に當て彼財(サイ)用を心のまゝにしてせんを極めし
冨商ハ盗(トウ)賊(ゾク)の奴と成て悲(ヒ)哀(アイ)さそとも益なかるべし
聖人の言たがふことなし
一 心友問人これ聖人なる見しといへり迂(ウ)闊(クワツ)なる者よと
きハめ文聖人を知るとおさ紀かよ愚つる者とある也

云其全徳(トク)を得る時ハ聖人ハ神明不測の事なれハ学人の
およはさる所なりされとも人の人たる所の實体ハ聖人と異(コト)
なる事なし人ミな明徳あり大人ハ赤子の心を不失
事也といへり学ハ後来の人欲を去て元本の天理
を存する所と紙学ふ所の也此心天理に専(モツハラ)にして人
欲の私なき時ハ則聖人の心なり

一 心友問心の内に向と外に向との模(モ)様(ヤウ)をいふ　云ハむか
し論語に三人行(ユクトキハ)必(ス)有(リ)[二]我師[一]といへりおもふに人三人ある
其一人ハ我也我を一人としあと二人ハ善人を見
てハ是を好し其道に與し是我習覚し不善人我
身にくハ或ハ形是をさけ或ハ心にこれをさく覚し我身
にも如此の不善ありやとかへりみし是を受用

かれをもとむれどもなくして見る時もよく紀事にはけ
生ずとも師外にあり心のおのれに向ふ我中に生
れらし師我何より求めんや善我見てよく好むを
心ハ則我身に善をすゝむの師也不善我見てよく悪
む心ハ則我身に不善我改むる師也心ハ無声無
臭なれども感応の跡依て知命し明師ありと
いへども一念の微に知ずして我ありて善悪
を知の霊明を奉持するによつて師ハ我よりこそ近
明乃見るてなし

一心交同人にかならず志ありといへども志もなくしかれバ
志といふも道より志す也初学の人道に志ざし
てはゐれ道をもつてはいへども心思のむかふ所也

集義論上

二十

なる邪偽の惑をもくすへし　問　志ありけれども正しき
人あり志なきといへども正しからざる人あるハ何
ぞや　答云　気質よき人ハ道を学ひざれども正
しきものなり気質あしきものハ道に志すと
いへども儀は善人と成ことあるまじくれども時
非乃我ふりハ降する也し一たび道に志まつるのそ
いまた道をしらざるほしかずしざるとも志善にむつ之
む大かる不仁不義をハなさず邪偽の左道なくあへ
すなふ也のしれ気質よきとも正しき人ハ行跡す
といへども道を志しざる故心ふ守なく明らかなる不
る行也し其身ハ好人乃採不見也とも事乃
邪正を知ずして不義をも行ふことあり又左道

なりしまなりし者あり天ハ物を生する此徳あるハ
此病あり知不足なるものハ行正し行不足なる
ものハ知明らかなり志ある者ハ多くハ行不足にして
知明らかなる所みて外よりみる時ハ知らくして行
正しき人ハまさりたとへバ草木乃おもし今日養（ヤシナヒ）
を得て明日長（チヤウ）する物ある其本をよくかられし
て末を同しくせむ一二の養（ヤシナヒ）なくは長するハ
二三乃末ハ長せざるにも係よハあらえかろるべし
心友問志於道據於徳依於仁遊於藝
云他岐乃惑なく人道の正しき筋を得むと欲するハ道よ
志きより徳ゆするハ有徳のくよりより近付也仁
よ依ハ自己天真ハ正しき母なつれ養ひ得とれ

あり大体ふあてらふものを藝ふ游ハ礼楽弓馬
書数等乃人倫日用の事ありをひて正しくあまよ
行ふ也六藝ハ至理れ寓するあれバ故ふ専ふ
れさむる时ハ来の理ふ漏く本心の徳を失ふもの
あり游ふ心を知らざれ时ハ其術を盡しても
かむるにいへると道徳乃助きて成く未藝ふなか
まれ游ふ心を不知して上手となるものハ道徳ハ
大なるをそ川く藝術のとこしきなる故なりその
也其の厚ふするところを薄ふするあれバ近きも
薄ふする所厚をれバ藝術身の害ふ成るもの
多しし

一心交问詩ふ興といへるを後学の者興しとおもふれん

古のおもりし者ハいふむ　云古れ文を学ひしと
詩経將として待ハ志をいつるとみから善悪邪正を
みかん情れ實事也故よおもて経学ふ者ハ實学
也人倫日用乃實事よそひて善心を感発し善行
経興起し悪をこらし邪経ゆめく事をもうひ
れ待よようく志れもこ所よおくずや　同礼よ所
そのハいん　云礼ハ恭倹謙遜を本として屋中ふ
天下乃益を来ると不レ争不レ奢身子けそこ世ハ朋
齋の會筋嚴れ衆をおさむ次事に用そハ節
制度數の文おりて家國天下ス及ぶれハこ礼ハ吉凶軍
賓嘉乃五つもこ吉ハ祭礼也凶ハ喪礼也軍ハ軍法也
賓ハ主客往来交會れ礼儀也　嘉ハ婚姻の礼及

ば冠礼といふ也人恭倹ならざる者ハ心を褻ひ身を失ふ家國天下にいたるまて恭倹謙遜乃教なき時ハ驕奢日ゝに長して争逆の事発す終に小國亡ひ天下乱る故に身より家國天下に至るまて礼をけもて恭敬に礼義をもとゝし敬を以て心を存し倹約にて身を修め遜順を以て家をとゝのへ謙明を以て國を治めん篤恭にして天下平らかなるに至る是礼乃義明らかなれハ也同今管絃の楽といふものを見るに楽によりて正心修身齊家治國平天下の事成就せんとも思ふなるへしけられ古の楽に成し者ハいふむ云孔子曰視其所以觀其所由察其所安とあるにみえありて其平生

のぞん所は何事をかとみるに文学弓馬等能学びて文武
乃つとめみれこそらん其する所をよく見れば其心みな名利
德業をたてむとにはあらで名利を求むる為かと見ゆ能々得
て利禄を求むべきとも名誉を得ん事をも思へて文を
学びては道理をわきまへ弓馬を習ては其業能くせん
う為なるべし所の心もよこし也去れども其人乃間
暇無事の時従容游楽の地すきぬく心を用るのみ
ならぬ其安するところも為ところ依ところすてゝよろしく人はあるまじ
ども安まる所あまねく正しくんば人すなはち其気は為に
しろ依ところすてゝ心を起しくいやしむ事なし也大勇
力ある人ありて志篤実也といへども楽戯不絶時は安する
所まきれて心を用ることしあらざらん

或ハ怠惰或ハ嚴厲なるものも是正しき事にあそぶ道をしらざる也正樂械をしらべて後心を安ずる所遊びたのしむ事正しく徳に入やすし夫樂ハ五声十二律をもて或ハ歌舞し或ハ絲竹をしらべ人の性情を養て邪穢を蕩滌し和順にして道徳を得るの打りなり風を移し俗を易ること樂よりよきハなし道学ぶ者樂に成就することなりハ同学し正樂を習て後務く知通し文学して道理を知るといへども樂を不知者ハ其風情に通ぜん樂を学ぞ文学せさるまでも其道理ハ通ぜざと文学樂道ハ術用ハして心術を志らさまでも心みわれて樂むしまさん未れ歌樂に成音をくなし

一心友可仰之弥高鑽之彌堅瞻之在前忽焉在
後此章道れ得がたき事をいへる顔子たに得がたき
道なれバ後学の者いかで及ぶべきや 云 志あるにハわ
らん大山なるしといへどもかぎりあれバそこまでのぼり尽
すべし 天を大なりといひ日月ハきはめてとを
象形ある物ハ数学をもつてはかりしるべし
道乃高遠ハきハまりなし故ニ其高きに付て仰之彌
高しといふべし自力見解の及ぶべきにあら
ざれバ鑽之彌堅しとハ力をつくし才覚をもちゐて
得べからず瞻之在前忽焉在後ニとハ文章言語なとく
かきとゞめへのかれを知識の及ぶべきにあらずして實義
をあかりて後不仰しく高遠に及び徳行あつて

援無窮乃門に入通し無知之知を得て後無方の解
なるへし問博文約礼いかん云我を博むるに文を以てし致知
格物とハ万物一体の身を修め古今人情時変に達し、
て用る時ハ行ひ舎る時ハ隠る、也我を約するに礼を以てすれハ
人欲ことくつきて天理流行する也欲罷不能とのへん
る明らかなる也今の人志を立ても既に忘る者
にかまし見るからかすしてさとへ也から成る時に忽にえ
まやめんと欲すれ共罷むに不し竭才をと尽すれ
とり是乃ゆくものし天質の心知を用る也顔子志学
より善信美大に至まて其才をつくして川ども及
ところ也如有所立卓爾雖欲従之末由也已ときより
後大にして化せむとは功夫ははめの及へきにあらん

聖学峻絶の地位言語の不及ところ也此時顔子天年
終むとするの前あるゑし天顔子に年をかさすしハ
化して聖人となる逸きし聊まくいらす
心友問知者ハ動き仁者ハ静カ也ご動静ハ不相似に以人
の屈伸天乃陰陽あるがごとし一動一静互ハ其根をなせ
ことわれ有徳の人なるら云是二人にあらん一氣
まよく動く者ハよく志ゆうすら知者ハ周流してす
みそおかられ物ゆまさうれ取よたちむ流れ我みんと
歎息まて左右其源よ逢ふ知者象あらまとなわ仁者
ハ万物をもいて一体とられ死生禍福ともに吾有也而
よ尘として不亡ものハ命なりし無欲にして静カ
也山の象あり徳性れ動て樂我知といひ静の行く

壽を以仁といふ

一心安問仁ハ全徳の名なり是によりて博施済衆をもつて
仁なりと大也己の徳ハ何ぞや云事是仁の用をいひ
てり仁ハ天地万物をもつて一体とせられどいへども用ありてハ
ても天地の大なるをも人なりゆへむかしむ所あり堯舜
をやめることもあるなり仁者の己立むと欲する所則人を
立る所なり己達せむと欲する所則人を達するなりと也
思ひをめぐらしてよしとする所にあらず仁者ハ一己の私意
なく天理流行すると云人々我の為にてなし物と利
するハ徳ありて己を利する事の欲なし此の所よ
自然に行はるゝ親切にあたかも人我なるを物と
二つあらず是ハ物ようり近ハ身ようすなはち仁の体を

いふにハ太虚天地中国夷狄のわかれ拘なし子貢ハ其
用につきていへり故に小乃ほへりも其重ハ天下を有つ能
事也是よりて言ハ往来もとむへのかれ形あるものハ必ず也
ならる不あり不相通の勢なり鳶飛魚躍形より
つんてハ各別なりそれ飛躍もる所以乃ものハ一なり
一 心友同死生の道ハわすとられすとも生れぬを死ぬるなく
一 むかしの心ハきよくつきかれどもえく年より白毛生
し身体かたりゆくを見るくハ感慨の心おこりぬ
いうすつ受用けくのかなれ情も褒し御免くさや
云よりて学者不学者共よく人情の通情也ら清く
まうひて多きうのよさきよりてもくもかのかひ人を
世とこに仁ならさるの事ハ一なり孔子門のけくうま

まくゆくものハかくのごときか晝夜をすてざれバとい
ふ是道体也川流の見やすきを以て道体
の無窮無息を教給ふ吾人白髪生しでさへ万
ことわりをしらすゆくものハ彼ゆくもののごとくゆく川流
の道理也仁を知ものハ何とて好こ何故にあくやすむ

一 心変同子曰温故而知新可以為師矣とハ前に学ひ
ふるきを復してまなふ鍛錬しハまこころされ
と従月〻にたって知ところあらすか云温故ハ古の道
を学ふ也知新ハ今に行ふ処の至善を知也ハ
古への道の真をしりてそのよろしき今の時に経
に叶ひて知やすくわひ居きたる紀松に教給る紙君師
といふ也今の学者博く古の書紙見るとふとも心に工夫

受用(ジユヨウ)はせざれば身に行ふ事をしらず書に向て講釈(カウシヤク)
する時ハ学者のごとし書をはなれて日用常行に交る
時ハ平人に異(コト)なることなし是を学びて思ハざる時ハ
罔しと云べし又昼(チウ)夜(ヤ)功(ク)夫(フウ)受(ジユ)用(ヨウ)して心思を労し
め道を行はんとする者あれども学ばずして己が
異見(イケン)に任するゆへに己はあやまりをあやまりと
のあるをしらず思ひて学ばざる時ハ殆しといふべし
問博学とハいかなるの書はみならふことを倚るや　云古ハ
博(ヒロ)きといふハ易(エキ)詩(シ)書(シヨ)礼(レイ)楽(ガク)弓(キウ)馬(バ)書(シヨ)数(スウ)のごとく今は万
巻の書ハあるべき様なし数多(コヽタ)の書を見つくさんと思ハん
世を終る者あり博学ならずしてひろき者あり今吾
人の己の為に学ぶ道なるものハ四書は本とすべし其

餘乃經傳ハ年と氣力とにゆづるへし其家に生れ
たる者の其家職と何にもする事ハ常乃業なり
一心友問貴老乃書跡ハ口にハわさけなきつあづ
此よへ給そハまに取得らくこそつらのみひをとひきゆへ
我心よりおもふにハ人にハまた教ゆる者待り書跡あら
ためし候ハすとも貴老の書ハ筆法發明多しきら
さる者ハいつもあまき跡さにとをとひきゆへ待りし貴老
秘して出し給ハらい用る者の書ハ出仰せハせへ
まことまやかなるに成給ひぬ云ハめしより實徳ある
人にハみせがたし事不徳なる言說乃ごとくなけり
人乃取下やすにし也夫有徳なる人親炙する人其化を
蒙りて文明乃時ハ有徳乃人なりけりとも言說

をなくし世の惑疑をはらく功ありて予の言をもちゐく世よ
益あらんと人の言を取く聊何らんも同じ事也予か
言ハ大人乃言のごとく人の言ハ大人予の言のおとしたま
天乃霊明より生じたる取用る人あしき心ありとも
聞人ハわかちひを辨へし其言によりて吉利支丹と
紀乃左道によりまどはしむる風俗となさしむ事甚なり

一 心友同里ハ仁為美と孟子の仁ハ人の安宅也といへる家
意あらん人の身を安する所ハ古郷なり心の安楽なり
しても常なるものハ仁也とのたまへる義也と心得る人あり集
註の解ハ外さはの事也此説を深く悟り云
あらくらく学者乃内より力を付る為なりハやの本解ハ
集注の旨なるへし此語ハ為にする事ありての言

つかよりわれ古郷きやうなれバ風俗ふうぞく何事もごとくにしたがふべき
まことにおほくしん乃国にハ仁里とゝのほりてすむことを
さる勢をおもひ一篇にハ定めがたし好む不仁じん乃風俗ふうぞくにも
此土に居る者乃色見にも知仁にもはまゝ是つる道理を教をしへつる
此章にいはく仁なる本心の事なりとも事闕かんとおもへし
猶よりらく解とく所あり　同不仁者の約つゞまやかに居がたく楽に
長く久からざる事ハ何とならバ不仁者ハ物ごと二ツある一己
の私を持して世に渡る事を心のすなほ順を始とし逆をなく
と富貴或ハ貧ひん賤せんをハいふまでもなく是にハかゝはらず
すくむ所あれども其地に安んする事あらそれ或ハおもしろ或ハ
恩ふかきのまゝ富ふう貴きを得てハ大に恨ひとつの一人の栄えい耀よう
と心得い身の病苦をまぬかれ或ハ家をうしなふこそのまゝなり

ことをむさぼれどもあたへざる所なり周に大なるたき物
ありて善人是とめるといへり武王天下を治て後商
の代はつミたくはへたる財用を天下民にほどこし散し
あれハ四民乃身をたすくる者にあたへて餘あるときハ善人
をえらみ與へて冨しめ給へり善人ハ人欲の私なれ
者なるゆへハ天下の財用ハ天下の通用なる道理を知
かせぐ冨をも不成てもとめたからをそしるのよ
よく人にしらせ我かへりみて樂ひをしみ君子ハ民の父母
といへるも父母たるものたからを我子に分ちあたへ給
ごとく樂ひをともにすることゝし上より國天下に財を
わかちあたへひとしく施してへいはゞ多くおさめても施
すくなくとも及ばざることのなりもの乃うちなしれわさへて

却て害小なることありなく其利とする様に設て
治よくなりなきを成もとるべしとみおなれども彼善人仁
者見成てくて私にほどこしてよく當ふるのなきを
外より見て其小を施すに富む事なきにおゐて者あらし
故に小善人を富し先後にまうべきことなるとあるくなく仁誠
をおもふて及ばざるかに先なり

集義和書巻第十三 終

LIBRARY OF PRINCETON
MAR 15 1968
THEOLOGICAL SEMINARY

PL803
.K96
v.4

PL803
.K96
v.4